

## 和仏法律学校講義録

著者	若槻 禮次郎, 島田 鐵吉, 水野 鍊太郎
出版者	法政大學
巻	7
号	特別法
ページ	1-51
発行年	1903-10-01
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10114/5505">http://hdl.handle.net/10114/5505</a>

（明治三十五年十一月四日第三種郵便物認可 毎月十三回一日五日八日  
十日十一日十五日廿一日廿三日廿五日廿六日廿九日三十日發行）

明治三十六年十月一日發行

三十六年度 特別法ノ七

# 和佛法律學校講義錄

第百拾四號

和佛法律學校



# 特別法第七號目次

現行租稅法論(頁八二)

法學士 若槻禮次郎

戸籍

法(頁二二三)

法學士 島田鐵吉

著作權

法(頁二一〇)

法學博士 水野鍊太郎

雜報

○本大學ノ沿革並ニ改正校則概要

090  
1903  
5-7

ハ荒地ト爲ル能ハサルモノナリト曰フ者アルヘシト雖モ普通ノ場合ニ於テハ土地ハ多クハ地價ヲ有スルヲ以テ第二十條ハ主トシテ此普通ノ場合ヲ想像シ土地ハ荒地ト爲ルモ免租年期限ニ至レハ原地價ヲ以テ地租ヲ徵收スヘク地價ハ荒地ト爲リタルカ爲メニ之ヲ變更セサルコトヲ明カニシタルノミ之ニ依リテ地價ナキ土地ヲ除外スルノ意アルニハアラサルナリ

以上ノ四要件ヲ具備スルモノハ地租條例ハ之ヲ以テ荒地ト爲ス而シテ荒地ナルモノハ土地其物ノ狀態ニ於テ所有者ヲシテ供用ノ利ヲ收ムルヲ得サラムルモノナルヲ以テ其供用ヲ全シスルヲ得ルニ至ルマテハ其地租ヲ免スルコト相當ノ事ナリトス

(三) 荒地免租年期限ノ許可地租條例第二〇條第一項 地租條例第二十條第一項ハ荒地ハ其被害ノ年ヨリ十五年以内免租年期限ヲ定メテ規定スルカ故ニ土地カ荒地ト爲リタルトキハ所有者ノ欲スルト否トニ關セス必ス十五年以内ノ免租年期限ヲ定メテ其地租ヲ免セサルヘカラサルカ如シト雖モ同條ハ決シテ此ノ如キ意義ヲ有スルモノニアラス人ハ其意ニ反シテ利益ヲ強テラルルコトナシト

現行租稅法論 各種ノ租稅 地租 現行地租

ハ獨リ私法上ニ於テノミ之ヲ言フヘキニアラス公法上ノ關係ニ於テモ亦然リ故ニ荒地ト爲リタルノ故ヲ以テ免租年期ノ利益ヲ受ケムトスル者ハ必ス其意思ヲ表示シテ所轄稅務管理局長ニ出願セサルヘカラス地租條例施行規則第一四條ニ而シテ免租年期ノ出願アリタルトキハ稅務管理局長ハ實地ノ狀況ヲ按シ事實荒地ト爲リタルモノハ被害前ノ供用ヲ全ウスルニ至ル期間ヲ計リ十五年以內ニ於テ適宜免租年期ヲ定メ之ニ許可ヲ與フヘキモノトス人或ハ免租年期ハ其期間ノ地租ヲ以テ復舊工事ノ費用ヲ償還スルコトヲ得ルヲ期シテ之ヲ定ムヘキモノナリト謂フ者アリト雖モ之ヲ古來ノ慣例ニ徴シ且ツ法律カ年期ノ最長期ヲ制限スルニ考フルニ法律ノ精神ハ此ノ如キニ在ラスシテ全ク地力ノ復舊スル期間地租ヲ免スルニ在ルモノト謂フコトヲ得ヘシ但シ復舊工事ノ難易ハ以テ地力ノ復舊スル遲速ヲ計ルノ參考ト爲ルヘキカ故ニ免租年期ヲ定ムルニ付キ復舊工事ノ難易ヲ斟酌スヘキハ勿論ナリ

一筆ノ土地ノ幾部分天災ニ因リ地形ヲ變シタル場合ニ於テハ之ヲ部分荒地ト稱シ其部分ニ對スル地租ノ割合ヲ定メ一定ノ年期間之ヲ免スルコト嘗テ實際

ノ取扱ニ於テ行ハレタル所ナリト雖モ此ノ如キハ法規ヲ正當ニ適用シタルモノト謂フコト能ハス蓋シ地租ハ後ニ説明スヘキカ如ク土地一筆毎ニ之ヲ課スルモノナルカ故ニ地租ヲ免スト言ハハ一筆ノ地租全部ヲ徵收セサルコトヲ謂フモノナリ一筆ノ地租ノ一部ヲ徵收シテ他ノ一部ヲ徵收セサルハ地租ノ免除ニアラスシテ地租ノ輕減ナリ然ルニ法律ハ荒地ニ付テハ地租免除ナルコトヲ定ムルモ地租輕減ナルコトヲ定メサルヲ以テ一筆ノ土地ノ一部荒地ト爲リタルノ故ヲ以テ其地租ノ一部ヲ徵收セサルカ如キハ法律ノ規定セサル所ナリト謂ハサルヘカラス故ニ所謂部分荒地ナルモノノ生々タル場合ニ於テハ之ヲ一筆ノ全體ニ通シテ遠觀セ地形ヲ變シタル部分ニシテ全筆ノ一小部分ニ係リ且ツ其被害輕少ニシテ全筆ノ供用ニ妨害ヲ與フルコト甚タ輕微ナルトキハ之ヲ以テ荒地ナリト爲スヘカラス之ニ反シテ地形ヲ變シタル部分全筆ノ大部分ニ涉ルカ若クハ其被害稍ヤ甚シキトキハ一部分地形ニ變更ナキ場所アルモ全筆ヲ以テ荒地ト視年定期ヲ定ムルニ付キ少シク斟酌ヲ加ヘテ可ナリ但シ予カ茲ニ論スル所ハ一筆ノ一部分ニ付キ免租處分ヲ爲スコトハ法律ノ認メサル所ナリト謂フニ



在ルノミ一筆中荒地ト爲リタル部分ヲ分割シテ別筆ト爲シ之ニ對シテ免租年期ヲ請求スル場合ニ於テハ免租ハ全筆ニ關スルモノナルカ故ニ事實免租年期ヲ許可スルノ必要アル以上ハ之ヲ許可スルコトハ何等ノ妨アルモノニアラス

(6) 荒地免租年期ノ延長地租條例第二三條第二四條 荒地免租年期ノ延長ハ荒地ノ形狀ニ因リテ同シカラス荒地ニシテ川成海成湖水成ナルモノハ免租年期明ニ至リ尙ホ原形ニ復セサルトキハ更ニ二十年以内ノ繼年期ヲ許可ズルコトヲ得ヘク其他ノ荒地ハ免租年期明ニ至リ尙ホ荒地ノ形狀ヲ存スルトキ更ニ二十年以内ノ繼年期ヲ許可スルコトヲ得ルモノナリ地租條例第二三條モ亦十五年以内免租繼年期ヲ定ムト言フヲ以テ一見必ス年期ヲ延長セサルヘカラスルカ如シト雖モ免租年期カ出願ニ因リテ始メテ許可セラルルカ如ク其繼年期モ亦出願ナキトキハ之ヲ與ヘサルモノトス地租條例施行規則第一四條

第二十三條ハ免租年期明ニ至リ尙ホ荒地ノ形狀ヲ存スルモノト言ヒ第二十四條ハ免租年期明ニ至リ原形ヲ復シ難キモノト言ヘリ原地目ニ復シ又ハ他ノ地目ニ變シタルトキハ第二十條乃至第二十二條ノ適用ヲ受クヘキカ故ニ原形ニ

復シ難キモノトハ原地目ニ復セス又他ノ地目ニモ變セサルモノヲ指稱スルモノト謂ハサルヘカラス故ニ第二十三條及ヒ第二十四條ニ依リ繼年期ヲ出願スルニハ土地カ尙ホ荒地ノ形狀ヲ存スル場合ナラサルヘカラス而シテ土地カ荒地ノ形狀ヲ存スルトキハ川成海成湖水成ノ荒地ニ付テハ二十年ニ達スルマテ其他ノ荒地ニ付テハ十五年ニ達スルマテハ何回ニテモ繼年期ヲ申請スルコトヲ得ルモノトス然レトモ前者ニ付テハ二十年後者ニ付テハ十五年ニ達シタルトキハ其以外ニ繼年期ヲ申請スルコトヲ得ス然ルニ若シ其年期明ニ至リ尙ホ荒地ノ形狀ヲ存スルトキハ如何ニ之ヲ處置スヘキカ川成海成湖水成ノ荒地ニシテ年期明ニ於テ尙ホ川成海成湖水成ノ形狀ヲ存スルトキハ法律ハ所有若ハ之ヲ以テ其所有權ヲ拋棄シタルモノト看做シ之ヲ川海湖ニ歸シタルモノト爲セリ故ニ舊所有者ニシテ再ヒ以前ノ土地ニ復セントセハ更ニ公有水面埋立ノ許可ヲ受ケサルヘカラサルモノトス其他ノ荒地ニ至リテハ法律ハ此ノ如キ場合ニ付テ特ニ明文ヲ以テ規定ヲ爲スコトヲ爲サナリシカ故ニ法文ノ解釋トシテハ原地目ニ依リ原地價ニ復セシムヘキモノト謂ハサルヲ得ス但シ實際ニ於テハ

所有者ハ之ヲ以テ池沼原野又ハ雜種地ニ變シタルモノト爲シ地價ノ修正ヲ求ムルナルヘシ

(c) 荒地免租年期ノ消滅 荒地免租年期ハ左ノ場合ニ於テ消滅スルモノトス  
1 年期ノ滿了 免租年期滿了シタルトキハ原地價ニ復スルト將タ之ヲ修正スルトヲ問ハス又ハ低價年期ヲ許可スルト否トニ拘ラス荒地免租年期ハ終了ヲ告クルモノナリ

2 荒地免租年期ノ許可 荒地ト爲リタルカ爲メ免租年期ノ許可ヲ受ケタル土地カ再ヒ天災ニ因リ地形ヲ變シ其被害ハ既ニ受ケタル免租年期中ニ於テ地力ヲ回復スル能ハサルノ程度ニ在ルトキハ再度ノ被害ニ對シテ相當ノ免租年期ヲ受ケタルコト所有者ノ利トスル所ナリ而シテ荒地ニ亦地租條例ノ所謂有租地ナルヲ以テ荒地カ再ヒ荒地ト爲リタルトキハ之カ免租年期ノ許可ヲ受ケタルコトヲ得ヘキハ前既ニ詳論シタル所ナリ此ノ如キ場合ニ於テ後ノ出願ニ對シテ許可アリタルトキハ既ニ受ケタル荒地免租年期ハ消滅スルモノナリ地租條例施行規則第一三條蓋シ荒地ハ免租年期明ニ於テ其地ノ狀況ニ依リ或ハ之

ヲ原地價ニ復セシメ或ハ之ヲ修正シ若クハ低價年期ヲ定ムル等ノコトヲ爲ササルヘカラサルモノナルニ若シ二重ニ免租年期アルトキハ法律ノ規定ハ之ヲ實行スルヲ得サルヘシ然ルニ法律カ此ノ如キ規定ヲ設ケタルヲ以テ見レハ法律ハ二重ノ荒地免租年期ノ併行スルコトヲ認メサルモノト謂ハサルヘカラス加之所有者カ既ニ荒地免租年期ヲ有スルニモ拘ラス尙ホ荒地免租年期ノ許可ヲ申請スルハ既ニ有スル荒地免租年期ノ利益ヲ棄テテ更ニ現在ノ狀況ニ相當スル荒地免租年期ヲ受ケント欲シタルニ由ルモノト謂フコトヲ得ヘキカ故ニ之カ許可ハ前免租年期ノ消滅ヲ伴フコトハ其當然ノ結果ナリト謂フコトヲ得ヘシ

荒地免租年期中ノ土地ニ付キ海嘯被害ノ爲メニ免租年期ノ許可ヲ受ケタルトキモ亦荒地免租年期ハ上述ト同一ノ理由ヲ以テ消滅スルモノナリ

3 造林地免租年期ノ許可 荒地免租年期中ニ在ル土地カ造林ヲ命セラレタルカ爲メ免租年期ノ許可ヲ得タルトキハ荒地免租年期ハ自ラ消滅スルモノトス此事モ亦法律ニ明文ナシト雖モ荒地カ再ヒ荒地ト爲リ免租年期ヲ受ケタル

カ爲メ前ノ免租年期消滅スルモノトセハ此場合モ亦同一ノ理由アルカ故ニ同  
一ノ論結ヲ爲ササルヲ得ス

(一) 海嘯被害地 海嘯被害地トハ潮水ノ浸入ノ爲メ鹽分ノ散布ヲ受ケ作物ノ  
生育ヲ妨ケラルルニ至リタル土地ナリ潮水浸入ノ爲メニ地形ニ變更ヲ生スル  
トキハ其地ハ荒地トシテ免租年期ヲ受クルヲ得ヘシト雖モ唯鹽分ノ散布シタ  
ルニ止リ地形ヲ變セサルトキハ之ヲ荒地ト謂フコト能ハス然レトモ鹽分ノ撒  
布ニシテ甚シキニ至ルトキハ其地力ヲ損シテ作物ノ生育ニ適セサルニ至ラシ  
ムルコトハ荒地カ地力ヲ損スルト敢テ擇フ所ナキモノナリ故ニ法律ハ海嘯被  
害地モ亦荒地ニ準シ期間ヲ定メテ其地租ヲ免スヘキモノト爲シタリ

海嘯被害地トシテ免租年期ヲ受クルニハ左ノ要件ヲ具備スルコトヲ要ス  
1 潮水ノ浸入ノ爲メ作物ノ損害シタルコトヲ要ス 潮水ノ浸入アルモ鹽分  
ノ散布少キ爲メ地力ヲ害スルニ至ラサルトキハ免租年期ヲ受クルコトヲ得  
ス加之法律ハ作物ノ損害シタルモノト言フカ故ニ地租條例第二十條第二項ニ  
依リ海嘯被害地ト爲ルモノハ作物ノ有シタル土地ナラサルヘカラス而シテ作

土トハ普通ニハ耕地ノ上皮ヲ爲シ作物ノ生育ニ適スル土ヲ指稱スル語ナルカ  
故ニ田畑ニアラサレハ作物ノ有スルモノニアラス隨テ田畑以外ノ土地ハ潮水  
浸入ノ爲メ如何ニ多量ノ鹽分ヲ散布セラルルコトアルモ之ヲ以テ所謂海嘯被  
害地ト爲スコト能ハス人或ハ此見解ノ狹隘ニ過クルヲ難シ此ノ如ク解スルト  
キハ山林牧場原野等ノ如キ現ニ植物ノ生育ニ供スル土地ニシテ鹽分ノ爲メ其  
地力ヲ害セラレタル場合ニ於テ之ニ免租年期ヲ許可スル能ハサルニ至リ田畑  
等ト不攪衡ヲ生スルニ至ルヘシ是レ豈ニ法律ノ意ナラムヤ故ニ地租條例ノ所  
謂作物トハ植物ノ生育ニ供スル土ト謂フノ義ニシテ作物ノ有スル土地ト謂ヘ  
ハ廣ク山林牧場原野等ヲ包含スルモノナリト曰フ者アリ然レトモ予ハ此說  
ヲ探ルコト能ハス第二十條第二項ハ例外ニ屬スル規定ナルカ故ニ嚴正ノ解釋  
ヲ爲ササルヘカラス敷衍シテ之ヲ適用スルコトヲ得ス而シテ作物ナルモノヲ  
解シテ植物ノ生育ニ供スル土ト爲スハ普通ノ用語ヲ其字義以外ニ敷衍スルモ  
ノト謂ハサルヘカラス況ヤ第二十條第二項ハ後ニ追加セラレタル規定ニシテ  
當時潮水ノ浸入シタル田地ノ免租ヲ爲スヘキ必要アリシニ出テタルモノナル

ヲ以テ立法者ノ意モ亦耕地以外ニ之ヲ及ホスノ趣旨ニアラナリシコト事情ノ證明スル所ナルニ於テヲヤ

2 潮水浸入カ海嘯ニ原因スルコトヲ要ス 第二十條第二項ハ明カニ「海嘯ノ爲メ」ト言フヲ以テ暴風又ハ高潮等ノ爲メ潮水ノ浸入シテ作土ヲ害シタル場合ニハ同項ヲ適用スルコト能ハス然レトモ怒濤ノ浸入ハ海嘯ニ原因スルヤ又ハ其他ノ原因ヲ有スルヤハ事實ノ認定ニ屬スルカ故ニ天災ニ因リ潮水ノ浸入シタル場合ニ於テハ多クハ海嘯ノ爲メニ浸入シタルモノト認定セラルナルヘシ

(a) 海嘯被害地免租年期ノ許可(地租條例第二〇條第二項) 海嘯被害地ハ荒地ニ準スルヲ以テ免租年期ノ出願アリタルトキハ其狀況ニ依リ荒地ト同シク十五年以内適宜年期ヲ定メ之ヲ許可スヘキモノトス

(b) 海嘯被害地免租年期ノ延長 第二十條第二項ハ前項ニ準據スルコトアルヘシト規定スルヲ以テ海嘯被害地ニ付テハ第二十條第一項ヲ準用スルノ外第二十條乃至第二十三條ハ之ヲ準用セサルモノノ如シ然レトモ第二十一條乃

至第二十三條ハ第二十條第一項ノ結果ニシテ之ト密接ノ關係ヲ有スル規定ナリ而シテ第二十條第一項ヲ準用スルコトヲ定メタル立法者ノ意ハ其結果タル第二十一條乃至第二十三條モ亦之ヲ準用スルニ在リタルハ自ラ推測セラルル所ナルヲ以テ該三條モ亦海嘯被害地ニ準用セラルルモノト謂ハサルヘカラス特ニ海嘯被害地ニハ免租年期ヲ與ヘサレハ則チ已ム既ニ荒地ト同シク之ヲ與フヘキモノト爲シタル以上ハ獨リ其年期明處分ニ付テノミ荒地ト異ナルヘキ理由ハ少シモ之ヲ發見スルコト能ハサルカ故ニ第二十條第二項ノ所謂前項ニ準據スルコトアルヘシトハ荒地ニ準スルコトヲ得トノ義ナリト解セサルヘカラス隨テ免租年期明ニ至リ尙ホ作土損害ノ事實存スルトキハ更ニ十五年以内ノ免租繼年期ヲ定ムルコトヲ得ルモノナリ

(c) 海嘯被害地免租年期ノ消滅 海嘯被害地免租年期ハ左ノ場合ニ於テ消滅ス

- 1 年期ノ満了シタルトキ
- 2 荒地免租年期ノ許可アリタルトキ

3

海嶺被害地免租年期ノ許可アリタルトキ

(二) 造林地 期間ヲ定メテ地租ヲ免スル造林地ニ二種アリ一ハ森林法發布以

前無立木ト爲リ又ハ荒廢ニ屬シタル森林ニシテ主務大臣ヨリ造林ヲ命セラレ  
テ造林シタルモノ(森林法第五條第五條第一項)ニシテ他ノ一ハ原野、山嶽又  
ハ荒蕪地ニシテ新ニ造林シタルモノ(森林法第五條第二項)ナリ前者ハ行政官  
カ強制シテ造林ヲ爲サシムルモノナルカ故ニ法律ハ補償ノ意ヲ以テ一定ノ年  
間其地租ヲ免スルモノニシテ後者ハ強制ニ因ルニアラサルモノ一般ニ造林セラ  
ルルコトヲ希望スル場所ニ造林スルモノナルヲ以テ法律ハ獎勵ノ意ヲ以テ年  
期ヲ定メ其地租ヲ免スルモノナリ

(a) 造林地免租年期ノ許可 造林地ノ免租年期ノ許可ヲ受ケントスル者ハ所  
轄稅務管理局長ニ出願スルコトヲ要ス(明治三十一年大藏省令第十八號稅務管  
理局長ハ造林者カ仕立ラムトスル林種ニ依リ造林ノ難易地味ノ良否等ヲ斟酌  
シ二十五箇年以内ニ於テ適當ノ年期ヲ定メ之カ許可ヲ與フヘキモノトス明治  
三十一年大藏省訓令第七十三號及ヒ同年農商務省令訓令第四十四號)

森林法第五十六條ニ依リ造林地ノ地租ヲ免スルハ造林ヲ命セラレ又ハ造林ヲ  
爲サムトスル土地全部ノ地租ヲ免スヘキモノニアラス其造林シタル部分即チ  
事實植樹シタル部分ニ限リ其地租ヲ免スヘキモノトス故ニ若シ事實植樹シタ  
ル部分カ土地一筆ノ全部ニ涉ラサルトキハ其部分ノミヲ分限シ別筆ト爲シテ  
其地租ヲ免スヘキモノナリ

森林法第五十五條ニ依リ造林ヲ命セラレタル者カ造林ヲ怠リタル爲メ同條但  
書ニ依リ官ニ於テ造林ヲ爲シタルトキハ其地ノ地租ハ之カ免除ヲ請求スルコ  
トヲ得ルヤ第五十六條ハ前條ニ依リ造林ヲ命セラレタル森林ハ其造林シタル  
部分ニ限リ云云ト定メ造林シタル者ノ官ナルト所有者ナルトニ依リ區別ヲ設  
ケツリシヲ以テ此ノ如キ場合ニ於テモ亦免租年期ノ出願ヲ爲スコトヲ得ルモ  
ノト謂ハサルヘカラス但シ年期ヲ定ムルニ付テハ官ニ於テ植樹シタル場合ト  
所有者ニ於テ植樹シタル場合トニ依リテハ自ラ斟酌スル所ナカルヘカラス  
森林法第五十六條ハ一定ノ期間ヲ定メテ地租ヲ免スルヲ以テ之ヲ一種ノ免租  
年期ト視サルヘカラス然レトモ同條ノ期間ヲ更新又ハ延長スルコトヲ得ルノ

規ハシキヲ以テ一タヒ與ヘタル免租年期ハ其二十五年ニ達セサル場合ト雖モ之ヲ延長スルコトヲ許ササルモノナリ

(b) 造林免租年期ノ消滅 造林免租年期ハ左ノ場合ニ於テ消滅ス

1 年期ノ満了シタルトキ

2 荒地免租年期ノ許可アリタルトキ

以上掲ケタル四種ノ有期免租地ノ外期間ヲ定メテ地租ヲ免スルモノハ震災、水害、虫害等ノ爲メ害ヲ被リタル土地ニシテ一年ヲ限リ又ハ若干ノ年期ヲ定メ地租ヲ免セラルルモノノ、東京市區改正條例ニ依リ下付セラレタル河岸地ニシテ市區改正事業ノ終ルマテ其地租ヲ免セラルルモノ又ハ北海道ニ於ケル各種ノ土地ニシテ諸種ノ法規ニ依リ一定ノ年間其地租ヲ免セラルルモノノ如キアリト雖モ或ハ一時ノ特別處分ニ係リ或ハ一地方ニ於ケル特種ノ取扱ニ出ツルモノニシテ永遠ニ涉リ且ツ全般ニ通スルモノニアラサルカ故ニ茲ニハ其説明ヲ省略ス

## 第二 土地ノ區分

土地ニ對シ地租ヲ課シ又ハ之ヲ免スト言ハハ之ヲ課シ又ハ之ヲ免スヘキ土地ヲ指定セサルヘカラス是ニ於テ乎土地ハ相當ノ標識ニ依リ區域ヲ定メ之カ區分ヲ爲ササルヘカラス而シテ既ニ之カ區分ヲ爲シタル以上ハ彼此ノ區別ヲ明カニスルカ爲メ之ヲ表示スヘキ符號アルコトヲ要ス故ニ各區域ニハ番號ヲ付シ所在町村名又ハ大字名若クハ小字名ト其番號トニ依リ之ヲ表示スヘキモノト爲シタリ(地租條例施行規則第一條)土地ノ各區域ハ之ヲ帳簿又ハ書類ニ記載スル場合ニ於テハ一應トシテ記載スルカ故ニ從來之ヲ一筆ト稱シ其番號ハ之ヲ地番ト稱ス地租改正當時ノ成規ニ依レハ一筆ノ區域ハ同一地目同一所有者ニシテ道路、溝渠、堤塘、河川等ニ隔テラレサルヲ期シテ之ヲ定ムヘキモノト爲シタリ然レトモ此成規ハ唯踰越スヘカラサル制限ヲ示シタルノミニシテ實際ニ於テハ取扱者ハ其範圍内ニ於テ更ニ其見ル所ニ依リ相當ニ區劃ヲ爲シタリ又地番ハ當時地方ニ依リ或ハ一町村ヲ通シテ順次番號ヲ付シタルモノアリ或ハ字限リニ於テ順次番號ヲ付シタルモノアリ而シテ爾後市町村制ノ實施ト共ニ町村ヲ合併シテ新市町村ヲ作り從來ノ町村ヲ以テ大字ト爲シタルモノアルヲ

以テ現今ニ於テハ地番ニハ自ラ町村毎ニ之ヲ付シタルモノノ大字毎ニ之ヲ付シタルモノノ及ヒ小字毎ニ之ヲ付シタルモノノ三様アルニ至レリ  
現今土地ハ一小部分ヲ除クノ外ハ殆ト皆區域ヲ定メテ地番ヲ付セラル故ニ今後ニ於テ土地區分ノ必要アルハ凡ソ左ノ如キ場合ニ於テノミ之ヲ見ルモノトス

一 官地拂下海面埋立脱落地發見等ノ如キ場合

官有地ニハ地番ヲ付シタルモノアリト雖モ未タ之ヲ付セサルモノモ亦尙カラヌ官有水面ノ如キハ殆ト皆地番ナキモノナリ故ニ官有地ノ拂下又ハ下渡ヲ得タル者アルトキハ新ニ相當ノ區域ヲ定メテ之ニ地番ヲ付セサルヘカラス脱落地トハ地租改正以來調査ニ漏レ土地臺帳ニ登錄セラレザリシ民有地ナルカ故ニ之ニ地番ナキコトハ言フ須タス故ニ新ニ脱落地ヲ發見セタルトキハ是レ亦地番ヲ付スルノ必要アリ此ノ如キ土地ニ對シ地番ヲ付スル場合ニ於テハ町村毎ニ地番ヲ付スル地方大字毎ニ地番ヲ付スル地方及ヒ小字毎ニ地番ヲ付スル地方ノ別ニ依リ其最終番ヲ追ヒ其次番ヨリ順次之ヲ付スヘキモノトス

二 土地ノ分割ヲ爲シタル場合

土地ノ分割ハ所有者ノ意思ニ因リテ之ヲ爲スモノト所有者ノ意思ニ拘ラス之ヲ爲スモノトアリ

(イ) 所有者ノ意思ニ因ルモノ地租條例施行規則第五條 所有者ハ土地ノ一部ヲ賣却シ質入シ又ハ抵當ニ供スル等種種ノ事由ニ因リ一筆ノ土地ヲ分割シテ數筆ト爲スヲ必要トスルコトアリ此ノ如キ場合ニ於テ所有者カ其意思ヲ表示シテ申告ヲ爲ストキハ其指定シタル區域ニ依リテ區分ヲ爲シ各之ニ地番ヲ附セサルヘカラス

(ロ) 所有者ノ意思ニ拘ラサルモノ地租條例施行規則第二條 一筆ノ土地中一部分分左ノ場合ニ該當スルトキハ所有者カ分割ヲ爲スコトヲ申告スルト否トニ關セス政府ハ其部分ヲ分割スヘキモノトス

1 別地目ト爲ルトキ 土地ハ地番ニ依リテ表示セラルト雖モ其地目モ亦之ヲ表示スルノ一要素ナリ故ニ一筆ハ同地目ヨリ成ルヘキハ舊來ノ慣例ナリ加之地目ヲ變スルトキハ後ニ説明スヘキカ如ク其地價ヲ修正セサルヘカラサルモ

ノナリ然ルニ地價ハ一筆毎ニ之ヲ定ムルモノナルヲ以テ地價ヲ修正セントセハ勢ヒ修正スヘキ部分ハ一筆ヲ爲ササルヘカラス故ニ一筆中ノ一部分別地目ト爲リタルトキハ其部分ハ之ヲ分割スヘキモノトス此場合ハ開墾一部成功ノ如キトキニ於テ最モ其適例ヲ見ルモノナリ

3 有租地ニシテ免租地ト爲ルトキ 茲ニ所謂免租地トハ無期免租地ヲ指スモノナリ無期免租地ハ法律ニ依リ當然地租ヲ免除セラレルモノナルカ故ニ有租地ノ一筆中一部分免租地ト爲リタルトキハ其部分ハ之カ地租ヲ免セサルヘカラス然ルニ地租ハ一筆ニ付テ之ヲ定ムルモノナルカ故ニ一筆ノ一部分ノ地租ヲ免スルコト能ハス故ニ地租ヲ免スルカ爲メニハ先ツ以テ其部分ヲ別筆ト爲ササルヘカラス

3 免租地ニシテ有租地ト爲ルトキ 此場合ニ於テモ地租ハ一筆ニ付テ之ヲ定ムヘキモノナルヲ以テ勢ヒ分割スルニアラサレハ地租ヲ課スルコト能ハサルナリ

所有者ヲ異ニスルニ至リタルトキ 地租ハ所有者ニ課スルモノナルカ故

ニ所有者ヲ異ニスルニ至リタルトキハ別筆トシテ各其地租ヲ定ムヘキハ當然ナリ

5 質權ノ目的ト爲リタルトキ 所有者ヲ異ニスルニ至リタルトキト同一ノ理由ニ因リ別筆ト爲スモノナリ

右4及ヒ5ニ記ス所ハ理論ニ於テハ所有者ノ意思ニ拘ラス政府ニ於テ之ヲ分割シテ可ナリト雖モ實際ニ於テ土地ヲ讓渡又ハ買入セントスルトキハ之ヲ指定セサルヘカラサルカ故ニ讓渡又ハ買入前ニ於テ所有者ハ必ス之カ分割ヲ爲スナルヘシ故ニ事實ハ其意思ニ拘ラス政府ニ於テ分割スルカ如キ場合ハ起ラサルヘシ

土地分割ノ場合ニ於テ地番ヲ附スルハ分割前ニ於ケル其地ノ地番ニ「二三」四等ノ符號ヲ附シテ各筆ノ地番ト爲スヘキモノナリ例ヘハ百五十番ヲ分割シテ三筆ト爲シタルトキハ百五十番ノ「一」百五十番ノ「二」百五十番ノ「三」ト爲スカ如シ若シ既ニ地番ニ符號アル土地ヲ分割シタルトキハ其「一」筆ニハ従前ノ地番ヲ附シ他ノ各筆ニハ本番ノ符號ヲ順次増加シタル地番ヲ附スルモノトス例ヘハ前例ニ



於ケル百五十番ノ二ヲ更ニ分割シテ三筆ト爲シタルトキハ其一筆ハ依然トシテ之ヲ百五十番ノ二ト爲シ他ノ二筆ハ之ヲ百五十番ノ四及ヒ百五十番ノ五ト爲スカ如シ

### 三 土地ノ合併ヲ爲シタル場合

同一所有者ニ屬スル土地ハ成ルヘク合併シテ少數ノ筆ト爲スコト諸般ノ點ニ於テ便宜多シ何トナレハ土地ノ表示ヲ爲スヘキ機會ニ於テ多數筆ニ分ルルトキハ一之ヲ記載セサルヘカラサルモ之ヲ合併シテ少數ト爲ストキハ記載ヲ簡短ト爲スノ便尠カラサルヲ以テナリ故ニ所有者カ土地ノ合併ヲ爲サンコトヲ申告シタルトキハ之ヲ以テ區域トシ更ニ地番ヲ附スヘキモノトス(地租條例施行規則第一五條但シ市町村、大字又ハ小字ヲ異ニスル土地ハ之ヲ合併スル能ハサルモノナリ)

土地ノ分割ハ所有者ノ意思ニ拘ラス政府ニ於テ之ヲ爲ス場合アリト雖モ合併ハ所有者ノ意思ニ拘ラス政府ニ於テ之ヲ爲スコトハ法令ノ認メサル所ナリ蓋シ合併ハ分割ノ如ク之ヲ爲スニアラサレハ地租ノ賦課又ハ免除ヲ爲スコト能

ハサルカ如キ事情ナキヲ以テナリ然レトモ合併ハ前ニ記スカ如キ利益アルヲ以テ所有者ニ於テ別筆ト爲シ置クノ必要ナシト爲スモノハ成ルヘク合併スルヲ可トス

土地ヲ合併シタルトキハ合併前ノ地番中首位ニ在ルモノヲ以テ該地ノ地番ト爲スヘキモノトス例ヘハ百番、百一、番、百二番ヲ合併シテ一筆ト爲ストキハ百番ト爲スカ如シ從前ノ取扱ニ於テハ土地合併ノ場合ニ於テハ合併シタル地番ヲ悉ク擧ケテ何番何番何番合併ト記載スルノ例ナリシヲ以テ現今尙ホ此ノ如キ地番ヲ有スル土地アルヲ見ルコト尠カラス此ノ如キ地番ハ之ニ依リテ土地ノ沿革ヲ知ルノ便ナキニアラスト雖モ土地ノ符號タル地番トシテハ適當ナリト謂フコトヲ得ス

### 四 土地改良、耕地整理ヲ爲シタル場合

現在ノ土地區分ハ其區劃狹小不整ニシテ之ニ介在スル道路溝渠等ハ迂回屈曲シ且ツ各自ノ所有地ハ交互錯綜又ハ點在シ爲メニ利用ヲ爲スヲ得サル土地ヲ生スルコト多キノミナラス之ヲ利用スルニ付キ時間ト勢力トヲ費スコト比較

的多大ナラサルヲ得ス此狀況ハ耕地ニ於テ最モ甚シト爲ヌ是ヲ以テ明治二十年法律第三十號ヲ以テ地租條例ニ改正ヲ加ヘ耕地ノ區劃形狀ヲ變更シタルモノニハ地價據置年期ヲ許可スルコトトシ明治三十年法律第三十九號ヲ以テ土地區劃ノ改良ヲ爲シタルモノニハ現在地價ノ總額以上ニ上ルヘキ地價ヲ附ミサルコトヲ定メラレ尋テ明治三十二年法律第八十二號ヲ以テ耕地整理法ヲ制定シテ耕地區劃ノ整理ヲ容易ナラシメンコトヲ計リ専ラ土地ノ區劃形狀ノ整理ニ歸センコトヲ力メタリ耕地ノ整理ハ之カ法規ノ不備ナリシ時ニ在リテモ既ニ地方ニ因リテハ之ヲ企畫シ其成績亦見ルヘキモノ尠カラナリシヲ以テ法制ノ稍ヤ整備ニ就キタル今後ニ在リテハ各地ニ於テ益其施行ノ多キヲ見ルニ至ルナルヘシ而シテ改良整理ノ目的ハ實ニ現在ノ區分ヲ變更スルニ在ルカ故ニ其結果トシテ改良整理ノ成績ニ就キ新ニ相當ノ區分ヲ定メ之ニ地番ヲ附セサルヘカラス此場合ニ於テハ地番ハ左ノ例ニ依リテ之ヲ附スヘキモノトス

(明治三十三年大藏省訓令第二十二號)

一 改良整理ニ因リテ成リタル一筆從前ノ土地二筆以上ヲ包含シ又ハ從前ノ

土地二筆以上ノ各部分ヲ包含スルトキハ從前ノ土地中適宜其一ノ地番ヲ以テ各筆ノ地番ト爲スヘシ例ヘハ五十番五十一番五十二番五十三番五十四番ノ五筆カ整理ノ結果二筆ト爲リ五十番五十一番ハ其一筆ヲ爲シ五十二番五十三番五十四番ハ他ノ一筆ト爲リタルトキハ前者ハ之ヲ五十番トシ後者ハ之ヲ五十二番トスヘク若シ整理ノ結果五十番ノ一部ト五十一番ノ一部ト合シテ甲筆ト爲リ五十番ノ他ノ一部ト五十一番ノ他ノ一部ト合シテ乙筆ト爲リタルトキハ甲筆ノ地番ハ之ヲ五十番トシ乙筆ノ地番ハ之ヲ五十一番トスヘキカ如シ

2 改良整理ニ因リテ成リタル一筆從前ノ土地一筆ノ一部分ニ該當スルトキハ其地番ハ從前ノ土地ノ地番ヲ用フルカ又ハ其地番ニ一二三等ノ符號ヲ附シタルモノヲ用フヘシ例ヘハ三十番三十一番ノ二筆カ整理ノ結果二筆ト爲リ三十番ト三十一番ノ一部ト合シテ甲筆ヲ爲シ三十一番ノ他ノ一部カ乙筆ヲ爲シタルトキハ甲筆ヲ三十番ト爲シ乙筆ヲ三十一番ト爲スヘク若シ三十番ノ一部カ甲筆ヲ爲シ他ノ一部カ乙筆ヲ爲シ三十一番ノ一部カ丙筆ヲ爲シ他ノ一部カ丁筆ヲ爲シタルトキハ甲筆ハ三十番ノ一乙筆ハ三十番ノ二丙筆ハ三十一番ノ一丁筆ハ三十二

番ノ二ト爲スヘキカ如シ

## 第二款 課稅ノ標準

地租ハ土地ノ價額ヲ標準トシテ之ヲ賦課ス蓋シ物ノ價額ナルモノハ種種ノ原因ニ本キテ定マルモノナリト雖モ其物ヨリ生スル利益ハ之ヲ定ムル主要ナル原因ヲ爲スモノナルカ故ニ土地ノ價額ヲ標準トシテ地租ヲ課スルトキハ自ラ收利ニ比例スル課稅ト爲リ土地ノ負擔ニ厚薄ノ弊ナカラシムルニ庶幾キモノナルヲ以テナリ然レトモ現行地租ノ標準タル地價ナルモノハ第一節ニ於テ略述シタル如ク多クハ明治六七年ノ頃ノ時價ヲ以テ定メタルモノニシテ爾後地價ヲ設定シ又ハ之ヲ修正スルニハ常ニ地租改正當時ノ狀態ヲ基礎トシテ之ヲ行ヒタルモノナルヲ以テ今日ニ於テハ賣買價格トノ間ニ大ナル差違アルコトヲ免レス地租條例第一條但書カ本條例ニ於テ地價ト稱スルハ土地臺帳ニ掲ケタル價額ヲ謂フト規定シタルハ地租賦課ノ標準ハ土地ノ賣買價格ニアラスシテ其法定價格ナルコトヲ明カニシタルモノナリ

地租賦課ノ標準ハ土地臺帳ニ記載セラルル地價ナリトセハ土地臺帳ニ記載セラルル地價ハ正確ナル計算ニ本クモノニシテ且ツ其記載上ニ誤謬ナキコトヲ期セサルヘカラス若シ其間ニ誤謬アリシコトヲ發見シタルトキハ後日ニ於テ土地臺帳ノ記載ヲ訂正スルコトヲ得ルヤ事ニ誤アラハ之ヲ正スヘキハ當然ナルヲ以テ此ノ如キノ設問ハ殆ト之ヲ解決スルノ必要ナキカ如シト雖モ實際ニ於テハ此事タル頗ル論難辯議ヲ費サレタル問題ニ屬スルカ故ニ予ハ之ニ付テ一言ヲ試ミントス土地臺帳記載ノ地價ハ誤謬ヲ理由トシテ之ヲ訂正スヘキモノニアラスト爲ス論者ノ議論ハ主トシテ左ノ數點ニ歸著スルモノノ如シ

(イ) 明治十一年六月十三日地租改正事務局總裁及ヒ大藏卿ノ内達ヲ以テ誤失ヲ發見シ地券授與後三十日內ニ申報スルモノハ改租施行初年ヨリ更正スヘキコトヲ定メタルカ故ニ其期間經過後ニ於テハ誤謬ノ訂正ヲ爲ササルコトハ當時ニ於テ既ニ一定セラレタル方針ナリ

(ロ) 地價ノ訂正トハ既記ノ地價ヲ變シテ他ノ地價ト爲スモノナルカ故ニ地價訂正ハ地價修正ナリト謂ハサルヘカラス然ルニ地價ノ修正ヲ爲スヘキ場合ヲ

限定シタル地租條例第七條ハ地價ニ誤謬アリタル場合ヲ包含セサルカ故ニ誤謬ヲ理由トシテ地價ヲ變更スルコトヲ得ス

(一) 地價ハ其土地ノ實益ニ本キテ之ヲ定ムヘキモノナルカ故ニ稱シテ地價ニ誤謬アリト謂フ場合ニ在リテモ其誤謬ハ唯算出ノ間ニ於テ存シタルノミ行政官カ其算出ニ依リテ得タル地價ヲ土地臺帳ニ記載セタルハ其地價ノ能ク土地ノ實益ニ恰當スルモノナルコトヲ認メテ之ヲ登記シタルモノト謂ハサルヘカラス故ニ地價其物カ何等ノ誤謬アルモノニアラスシテ訂正ヲ要スヘキモノニアラス予ハ右ノ論結ヲ以テ正確ナル根據アルモノト信スルコト能ハス論者ハ明治十一年六月十三日ノ内達ヲ以テ地券授與後三十日ヲ經過シタルトキハ誤謬訂正ヲ許ササルノ趣旨アルモノト爲スト雖モ此ノ如キハ甚シキ誤解ナリ該内達ハ誤失ノ更正ヲ爲スヘキコトヲ前提トシテ發セラレタルモノニシテ唯其申出ノ地券授與後三十日內ニ在ルト否トニ因リテ更正シタル地租ヲ適用スヘキ時期ヲ異ニスヘキコトヲ定メタルノミ況ヤ該内達ハ地租改正當時ノ誤謬ニ付テノミ規定スルモノニシテ地租改正後ニ設定又ハ修正シタル地價ノ誤謬ニ付テハ

何等ノ關係スル所ナキニ於テヲヤ次ニ論者ハ地價訂正ヲ以テ地價修正ナリト爲シ地租條例第七條ハ之ヲ許サスト爲スト雖モ是レ亦議論ノ適切ナラサルモノト謂ハサルヲ得ス地價修正トハ適法ニ成立シタル地價ヲ法律ノ規定ニ從ヒテ變更スルコトヲ謂フモノナリ地價訂正トハ適法ノ地價ナキカ故ニ適法ノ地價ヲ記載シテ適法ナラサル地價ヲ削除スルモノナリ二者ノ間殆ト其混同ヲ生スヘキ接近タモアルコトナシ然ルニ此相異ナリタル事實ヲ混同シタル觀念ヲ前提トシテ議論ヲ爲ス其論結ノ當ヲ得サルハ言フヲ須タス誤謬ハ算出ノ間ニノミ存シテ地價其物ノ上ニ存セスト謂フニ至リテハ予ハ實ニ論者ノ寬容ナルニ驚カサルヲ得ス地價ハ地租條例第九條ニ依リ土地ノ所得ヲ審查シ其狀況ニ應シテ之ヲ定ムヘキモノナルヲ以テ行政官カ土地所得ノ審查ヲ誤ラス且ツ之ニ依リ一定ノ算法ヲ以テ其價格ヲ算出シタル場合ニ於テ此價格ヲ以テ直チニ其土地ノ地價ト爲スヲ不當ナリト爲シ他ノ事情ヲ斟酌シテ之ト異ナリタル地價ヲ土地臺帳ヲ記載セリトセハ後日ニ於テ當初算出シタル地價ヲ以テ之ヲ訂正スルコト能ハサルハ無論ナリ是レ誤謬訂正ヲ許ササルカ故ニ然ルニアラス誤謬

ナキカ故ニ訂正スヘキモノナキヲ以テナリ論者ハ如何ナル場合ニ於テモ此ノ如ク見ルヘキモノナリト謂フト雖モ此ノ如キハ問題ニ對スル解決ニアラス問題ハ實ニ地價ニ誤謬アリテ行政官モ亦其誤謬ナルコトヲ知ル場合ニ於テ之ヲ訂正スヘキヤ否ヤト謂フニ在リ例ヘハ土地ノ丈量ヲ爲スニ當リ之カ長短ノ間數ニ於テハ誤ル所ナキモ之カ面積ヲ算出スルニ當リ其算法ヲ誤リタルニ此誤リタル面積ヲ基礎トシテ地價ヲ定メタルカ如キ又ハ面積ノ算出ハ誤ルコトナキモ實地畑ナルニ拘ラス誤ラ田ナリト信シ近傍田地ニ比準シテ其地價ヲ定メタルカ如キ場合ニ於テ其實事實ニ於テ相違ナキコトヲ認メラルトキハ既ニ土地臺帳ニ記載セラレタル地價ヲ訂正スルコトヲ得ルヤ否ヤト謂フニ在リ行政官カ實地ノ情況算定ニ依リテ地價ヲ定ムルコトヲ適當ナリト爲シ而シテ其算定ニ誤リアリシトセハ土地臺帳ニ記載シタル地價ハ其適當トシテ定メント欲シタル地價ニアラスシテ土地ノ實益ニ適當セサルモノナルコトハ明カナリ之ヲ如何ソ土地臺帳記載ノ地價ハ土地ノ實益ニ適當スルモノナルコトヲ認メテ登記セラレタルモノニシテ誤謬ナシト謂フコトヲ得ヘケンヤ論者咸ハ曰ハ

「シ土地臺帳ノ記載ヲ爲ス時ニ於テ行政官カ其地價ノ實地ニ適當スルコトヲ認メタルヤ否ヤハ人ノ心理ノ作用ニ屬スルカ故ニ後日ニ至リ之ヲ確知スルコト能ハス然ルニ事ニ誤謬アルコトヲ推定スルハ推理ノ當ヲ得タルモノニアラス故ニ寧ロ初ヨリ如何ナル場合ニ於テモ誤謬ナカリシモノト爲スヲ以テ至當ト爲スト此ノ如キハ實地ノ議論ニアラスシテ證據ノ議論ナリ誤謬ニシテ證明セラレシハ訂正ナルコトノ起ラサルハ無論ナリ然レトモ既ニ誤謬ノ存スルコトヲ證明セラレタルトキハ論者ノ斷定ノ如キヲ許ササルモノナリ予ハ論者カ證明ノ難易ヲ以テ實地ノ機能ヲ左右セントシタルヲ惜シム者ノナリ予ヲ以テ之ヲ見ルニ算出ヲ誤リ又ハ比準ヲ誤リタルカ如キハ書類ニ徴シテ以テ之ヲ證スルコトヲ得ヘシ而シテ既ニ誤謬ニ因リテ地價ヲ定メタルコト明カナルトキハ誤謬ヲ訂正スルコトハ當然ノ事ニシテ特ニ法令ノ規定ヲ須タサルモノナルカ故ニ行政官ハ速ニ之カ訂正ヲ爲ササルヘカラス唯茲ニ注意セサルヘカラサルハ從前ノ取扱ニ於テ屢ニ目撃シタル所謂丈量誤謬ナルモノハ多クハ予ノ謂フ所ノ誤謬ニアラサルコト是ナリ土地ノ丈量ヲ爲ス機會ニ於テ其得タル面積

カ前丈量ニ於テ定メラレタル面積ト異ナルトキハ動モスレハ丈量誤謬トシテ其土地ノ地價ヲ訂正シタルコト從來履行ハレタル所ナリト雖モ現今行政上ニ於テ用ヒラルルカ如キ方法ヲ以テ土地ノ丈量ヲ爲ストキハ同一人カ同一ノ土地ノ丈量ヲ爲スモ毎回多少ノ差違ヲ見ルヘキコト其常ニシテ若シ之ヲ以テ前丈量ニ誤謬アルモノトセハ現行ノ地價ハ悉ク誤謬ニ因リテ成ルモノトシテ訂正ヲ爲ササルヘカラス然レトモ行政事務ナルモノハ決シテ此ノ如キ極端ナル施行ヲ許ハモノニアラス故ニ前後ノ丈量ニ於テ反別ニ少許ノ差違アル場合ノ如キハ決シテ前丈量ニ誤謬アリトシテ地價ノ訂正ヲ爲スヘキモノニアラサルナリ

地價ノ訂正ヲ爲シタル場合ニ於テハ正當ナル地價ニ依リテ地租ヲ定メ時効ニ罹ラサル限りハ誤謬ヲ生シタル年ニ遡リテ既徴ノ地租ニ對スル差額ノ追徴又ハ還付ヲ爲ササルヘカラス此事タル當然ノコトニシテ殆ト説明ヲ爲スハ必要ナキモノナリト信ス

### 第一 地價ノ設定

現今有租地ハ皆地價ヲ有シ而シテ其地價ハ明治六七年頃ノ狀態ヲ基礎トシテ定メラレタルモノナルコトハ既ニ述フル所ノ如シ然レトモ土地ノ所有者又ハ其供用ノ變更ナルコトハ絶エス存スル事實ナルカ故ニ有租地ニシテ免租地ト爲ルモノ頗ル多キカ如ク無租地ニシテ有租地ト爲ルモノ亦少カラス而シテ此ノ如キ場合ニ於テハ地租ヲ賦課スル爲メ其標準タル地價ヲ定メサルヘカラサルヲ以テ地價ノ設定ナルコトハ地租事務所管廳ニ於ケル常務ノ一ヲ爲スモノナリ

#### 一 地價ヲ設定スヘキ場合

地價ヲ設定スヘキ場合ハ一言ニシテ云ヘハ從來地租ヲ賦課セナリシ土地ニ新ニ之ヲ賦課セサルヘカラサルニ至リタルトキニ在リト謂フコトヲ得ヘシ然レトモ讀者ノ了解ニ便ニスル爲メ予ハ其場合ヲ細別シテ之ヲ舉示セント欲ス

(イ) 官有地ヲ民有ノ有租地ト爲シタルトキ 官有地ノ拂下又ハ下渡ヲ得テ之ヲ有租地ニ供用スルトキハ其地價ヲ設定スヘキモノトス但シ地租條例第十六條第五項ニ依リ新開免租年期ノ許可ヲ受ケタルモノハ此限ニ在ラス

(ロ) 免租地ヲ有租地ト爲シタルトキ(地租條例第一一條) 茲ニ免租地ト稱スルハ予ノ所謂無期免租地ニシテ地租條例第四條ニ規定スル土地ノミナラス特別法ヲ以テ無期ニ地租ヲ免スルコトヲ定ムルモノハ皆之ヲ包含ス地租條例第十一條ノ免租地ナルモノハ其第四條ニ規定スルモノノミヲ指スモノナルヘシト雖モ免租地ノ有租地ト爲リタルトキ其地價ヲ定ムヘキコトハ一般ニ及フヘキモノニシテ特ニ第四條ニ規定スル土地ニ限ルヘキモノニアラサルナリ

(ニ) 新開免租年期明ト爲リタルトキ(地租條例第一九條) 官有水面ヲ理立民有ニ歸セシ土地ニシテ新開免租年期ノ許可ヲ受ケタルモノハ民有ニ歸シタル際ニ於テハ地價ヲ設定セサルヲ以テ其年期明ト爲リ地租ヲ賦課スヘキニ至リタル時ニ於テ之ヲ設定セサルヘカラス

(三) 地租改正前ニ於テ荒地免租年期ノ許可ヲ受ケタル土地ニシテ年期明ト爲リタルトキ 地租改正ノ時ニ於テ現ニ荒地免租年期中ニ係ル土地ハ地租改正ノ時其地價ヲ定メサリシヲ以テ年期明ノトキニ於テ之ヲ設定スルコトヲ要ス其反別ハ甚タ多カラスト雖モ現今尙ホ各地ニ於テ此ノ如キ土地アルコトヲ見

ハ直ニ戸主ト爲ルモ而モ相續ノ拋棄ス爲スヲ得ルカ故ニ此等ノ者カ家督相續開始後拋棄ヲ爲サスシテ單純スハ限定ノ承認ヲ爲スコトニ因リテ家督相續開始ノ時ニ遡リテ戸主ト爲リタルコトカ確定スルモノトス(民法第一〇一七條、第一〇二四條、第九八六條)

私權ノ享有ハ出生ニ始マル(民法第一一條)故ニ胎兒ハ原則トシテハ人格ヲ有セス然レトモ特ニ家督相續ニ付キテハ既ニ生レタルモノト看做サル但家督相續開始後胎兒カ死體ニテ分娩セラレタルトキハ其胎兒ハ家督相續ヲ爲ササリシコトト爲ル(民法第九六八條)

(老) 届出ノ手續 家督相續ニ因リテ戸主ト爲リタル者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ一箇月内ニ左ノ諸件ヲ具シ之ヲ被相續人ノ本籍地ノ戸籍吏ニ届出ツルコトヲ要ス(戸第一三三條第一項)

一 家督相續ノ原因及ヒ戸主ト爲リタル年月日  
二 前戸主被相續人ノ名及ヒ前戸主ト家督相續人トノ續柄  
家督相續人カ外國ニ在ル場合ニ於テハ戸主ト爲リタル事實ヲ知リタル日ヨリ

### 三 箇月内ニ届書ヲ發送スルヲ以テ足ル(同條第二項)

(注意) 其實ヲ知リタル日トハ自己ノ爲メニ家督相續カ開始シタルコトヲ知リタル日ヲ指スニアラスシテ家督相續ニ因リ戸主ト爲リタルコトカ確定シタルコトヲ知リタル日ヲ指スモノナリトス故ニ例ヘハ家督相續人カ承認又ハ拋棄ヲ爲スコトヲ得ヘキ場合ニ在リテハ承認ヲ爲シタルニ因リ又ハ單純承認ヲ爲シタルモノト看做サルニ因リ戸主タルコトカ確定シタルコトヲ知リタル日ヨリ起算ス然レトモ家督相續人カ拋棄ヲ爲スヲ得サル場合ニ在リテハ家督相續ノ開始ト同時ニ家督相續ニ因リ戸主タルコトカ確定スルヲ以テ家督相續カ開始シタルコト自己カ拋棄ヲ爲スヲ得サル家督相續人ナルコトトヲ知リタル日ヨリ起算スヘキモノナリトス

真正ノ家督相續人ニアラサル者カ家督相續ノ届出ヲ爲シ其登記アリタルトキハ之ニ因リテ相續權ヲ侵害セラレタル真正ノ家督相續人又ハ其法定代理人ハ家督相續回復ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

(注意) 家督相續回復ノ請求權ハ家督相續人又ハ其法定代理人カ相續權侵害

ノ事實ヲ知リタル時ヨリ五箇年間之ヲ行ハサルトキハ時効ニ因リテ消滅ス相續開始ノ時ヨリ二十年ヲ經過シタルトキ亦同シ(民法第九六六條)

家督相續回復ノ判決カ確定シタルトキハ相續權ヲ回復シタル者ハ判決確定ノ日ヨリ一箇月内ニ其判決ノ謄本ヲ添ヘテ前ニ述タル家督相續ノ届出ヲ爲シ且ツ真正ノ家督相續人ニアラサル者ノ届出ニ因リ爲シ在ル登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス(戸第一三四條)

(注意) 相續權ヲ回復シタル者カ爲スヘキ此届出ト申請トハ同時ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

家督相續開始ノ場合ニ於テ法定ノ推定家督相續人カ胎兒ナルトキハ其母ハ相續ノ開始アリタルコトヲ知リタル日ヨリ一箇月内ニ左ノ諸件ヲ具シ醫院ノ診斷書ヲ添ヘテ家督相續ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス(戸第一三五條胎兒ハ既ニ述ハタル如ク家督相續ニ付キテハ既ニ生レタルモノト看做サルルカ故ナリ

一 相續開始ノ年月日

二 家督相續人ノ胎兒ナルコト



三 前戸主被相續人ノ名及ヒ前戸主ト家督相續人トノ續柄  
胎兒ノ母カ外國ニ在ル場合ニ在リテハ胎兒ノ爲メニ家督相續カ開始シタルコ  
トヲ知リタル日ヨリ三箇月内ニ届書ヲ發送スルヲ以テ足レリトス戸第一三五  
條第二項ニ依リテ戸第一三三條第二項準用

(注意) 胎兒ノ母カ爲スヘキ届出ニ關スル戸籍吏ノ管轄ニ付キテハ戸籍法第  
百三十五條ニ特別ノ規定ナシ然レトモ此届出ハ家督相續ノ届出ノ一種ナル  
カ故ニ戸籍法第三百三十三條第一項ニ依リ被相續人ノ本籍地ノ戸籍吏ニ之ヲ  
届出ツルコトヲ要スルモノトス

胎兒カ家督相續人ト爲リタル場合ニ於テ其母ヨリ前掲ノ届出ヲ爲シタル後其  
胎兒カ死體ニテ分娩セラレタルトキハ前掲ノ届出ヲ爲シタル母ハ分娩ノ日ヨ  
リ一箇月内ニ醫師又ハ其分娩ニ立會ヒタル産婆ノ検査書ヲ提出シテ前掲ノ届  
出ニ因ル家督相續ノ登記ノ取消ノ申請ヲ爲スコトヲ要ス戸第一三六條第一項  
蓋シ死體ニテ分娩セラレタルトキハ初ヨリ家督相續ヲ爲サナリシコトト爲ル  
カ故ナリ

母カ登記取消ノ申請ヲ爲サナル前ニ死亡シ又ハ尙ホ生存スルモ此申請ヲ爲サ  
ナルトキハ家督相續人胎兒カ家督相續ヲ爲サナリシコトト爲リタル爲メ前戸  
主ノ家督相續人ト爲リタル者ヲ指シハ其事實ヲ知リタル日ヨリ一箇月内ニ登  
記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス(戸第一三六條第二項)

家督相續ヲ爲シタル胎兒カ生命ヲ保有シテ出生シタル場合ニ在リテハ別段ノ  
届出ヲ爲スコトヲ要セス前第二節ノ手續ニ從ヒ出生ノ届出ヲ爲セハ足ル  
本節ニ掲ケタル届出又ハ申請ハ何レモ既ニ發生シタル事項ニ付キ戸籍法上ノ  
義務トシテ法定期間内ニ爲スヘキ届出又ハ申請ナリ故ニ家督相續人又ハ胎兒  
ノ母カ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ親權ヲ行フ者又ハ後見人ハ戸籍法第  
四十六條ノ規定ニ依リ届出義務者又ハ申請義務者ト爲ル

#### 第十四節 推定家督相續人ノ廢除ニ關スル届出

(次)總論 本節ニ於テハ推定家督相續人ノ廢除ニ關スル届出ノ手續即チ戸籍  
法第四章第十四節ノ規定ヲ説明スヘシ

推定家督相續人民法ニテハ法定ノ推定家督相續人ト曰フトハ戸主ノ家族タル直系卑屬ニシテ其戸主カ死亡シ又ハ戸主權ヲ喪失スルトキハ民法ノ規定ニ依リ當然家督ヲ相續シテ戸主ト爲ルヘキ者ヲ謂フ

戸主ノ家族タル直系卑屬ハ民法第九百七十條乃至第九百七十四條ニ掲ケタル順序ニ從ヒ戸主ノ推定家督相續人ト爲ルモノトス

(注意) 胎兒ハ家督相續ニ付テハ既ニ生レタルモノト看做サルル(前節參照カ)

故ニ胎兒モ亦民法第九百七十條乃至第九百七十四條ニ掲ケタル順序ニ從ヒ戸主ノ推定家督相續人ト爲ル

推定ノ家督相續人ニ付キ左ノ事由アルトキハ被相續人タル戸主ハ其推定家督相續人廢除ノ訴ヲ裁判所ニ提起スルコトヲ得民法第九七五條

一 被相續人ニ對シテ虐待ヲ爲シ又ハ重大ナル侮辱ヲ加ヘタルコト

二 疾病其他身體又ハ精神ノ狀況ニ因リ家政ヲ執ルニ堪ヘサルヘキコト

三 家名ニ汚辱ヲ及ホスヘキ罪ニ因リテ刑ニ處セラレタルコト

四 浪費者トシテ準禁治產ノ宣告ヲ受ケ改悛ノ望ナキコト

五 一乃至四ニ該當セナル他ノ正當ノ事由アルコト但此場合ニ於テハ戸主ハ自己ノ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

右一乃至五ノ孰レカノ事由アルトキハ戸主ハ廢除ノ訴ヲ提起セスシテ遺言ヲ以テ推定家督相續人ヲ廢除スル意思ヲ表示スルコトヲモ得ヘシ而シテ此場合ニ在リテハ遺言執行者ハ其遺言カ效力ヲ生シタル後遲滯ナク裁判所ニ推定家督相續人廢除ノ訴ヲ提起スルコトヲ要スルモノナリ(民法第九七六條)

(注意) 五ノ事由ニ因ル廢除ノ遺言アリタルトキハ遺言執行者ハ被相續人ノ親族會ノ同意ヲ得テ廢除ノ訴ヲ提起スルコトヲ要スルモノトス

廢除ノ訴ニ於テ原告勝訴ノ判決アリテ其判決確定シタルトキハ戸主ヨリ訴ヲ提起シタル場合ニ在リテハ推定家督相續人ハ判決確定ノ時ヨリ其資格ヲ喪失シ遺言執行者ヨリ訴ヲ提起シタル場合ニ在リテハ推定家督相續人ハ被相續人死亡ノ時ニ遡リテ其資格ヲ喪失ス(民法第九七六條末段)

推定家督相續人廢除ノ判決確定シタル後其廢除ノ事由カ被相續人ニ對シテ虐待ヲ爲シ又ハ重大ナル侮辱ヲ加ヘタル場合ナリシトキハ被相續人ハ何時ニテ

ナリシトキハ其事由止ミタルトキニ限リ被相續人又ハ廢除セラレタル者ハ裁判所ニ廢除取消ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ヘシ但孰レノ場合ニ在リテモ相續開始後ニ及ヒテハ廢除取消ノ訴ヲ提起スルコトヲ得サルモノトス(民法第九七七條)

前項ニ從ヒ被相續人カ廢除取消ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ルトキハ被相續人ハ之ヲ提起セシテ遺言ヲ以テ廢除ヲ取消ス意思ヲ表示スルコトヲモ得ヘシ面シテ此場合ニ在リテハ遺言執行者ハ其遺言カ效力ヲ生シタル後遲滞ナク裁判所ニ廢除取消ノ訴ヲ提起スルコトヲ要スルモノナリ(民法第九七七條末項)

廢除取消ノ訴ニ於テ原告勝訴ノ判決アリテ其判決確定シタルトキハ被相續人又ハ廢除セラレタル者ヨリ訴ヲ提起シタル場合ニ在リテハ前ニ廢除セラレタル者ハ判決確定ノ時ヨリ推定家督相續人タル資格ヲ回復シ遺言執行者ヨリ訴ヲ提起シタル場合ニ在リテハ被相續人死亡ノ時ニ遡リテ其資格ヲ回復ス(民法第九七七條末項ニ依リテ同法第九七六條末段準用)

推定家督相續人廢除ノ訴及ヒ其廢除取消ノ訴ノ手續ニ付キテハ人事訴訟手續法第二章ヲ參照スヘシ)

(先)届出ノ手續 推定家督相續人廢除ノ判決カ確定シタルトキハ被相續人ハ判決確定ノ日ヨリ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シ判決ノ謄本ヲ添ヘテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス(戸第一三七條)

一 廢除セラレタル者ノ名出生ノ年月日及ヒ職業

二 廢除ノ原因 前(先)ニ説明シタル廢除ノ事由ヲ指ス

三 廢除ノ判決カ確定シタル年月日

被相續人カ遺言ヲ以テ推定家督相續人ヲ廢除スル意思ヲ表示シタル場合ニ於テ廢除ノ判決カ確定シタルトキハ前項ノ届出ハ遺言執行者ヨリ之ヲ爲スコトヲ要ス此場合ニ在リテハ其届書ニ被相續人ノ死亡ノ年月日ヲ記載スルコトヲ要ス(戸第一三八條)

推定家督相續人廢除ノ取消ノ判決カ確定シタルトキハ其取消ノ訴ヲ提起シタル者ハ判決確定ノ日ヨリ一箇月内ニ判決ノ謄本ヲ提出シテ前ニ爲シタル廢除

ノ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス(戸第一三九條)  
本節ニ掲ケタル届出又ハ申請ハ孰レモ判決ノ確定ニ因リテ既ニ效力ヲ生シタル事項ニ關シ戸籍法上ノ義務トシテ爲スヘキ届出又ハ申請ナリ  
別段ノ定メナキカ故ニ廢除ノ届出ニ關スル戸籍吏ノ管轄ニ付キテハ通則ノ規定ニ從フコトヲ要シ(四)參照又取消ノ申請ハ原登記ヲ爲シタル戸籍吏ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

### 第十五節 家督相續人ノ指定ニ關スル届出

(三)總論 本節ニ於テハ家督相續人ノ指定ニ關スル届出ノ手續即チ戸籍法第四章第十五節ノ規定ヲ説明スヘシ

法定ノ推定家督相續人前節ニ所謂推定家督相續人はナリナキ戸主ハ家督相續開始前ニ限り家督相續人ヲ指定スルコトヲ得此指定ハ法定ノ推定家督相續人アルニ至リタルトキハ當然其效力ヲ失フ(民法第九七九條第一項)  
家督相續人ノ指定ハ家督相續人開始前ニ限り之ヲ取消スコトヲ得民法第九七

### 九條第二項

戸主ハ無能力者ナルトキト雖モ其法定代理人ノ同意ヲ得シテ家督相續人ヲ指定シ又ハ之ヲ取消スコトヲ得

被相續人タル戸主ハ戸籍吏ニ對スル届出又ハ遺言ニ依リテ家督相續人ノ指定又ハ其取消ヲ爲ス意思ヲ表示スルコトヲ得被相續人カ届出ニ依リテ指定又ハ其取消ヲ爲ス意思ヲ表示シタルトキハ指定又ハ其取消ハ戸籍吏カ届出ヲ受理シタル時ヨリ其效力ヲ生シ(民法第九八〇條)被相續人カ遺言ヲ以テ指定又ハ其取消ヲ爲ス意思ヲ表示シタルトキハ遺言執行者ハ其遺言カ效力ヲ生シタル後遲滞ナク之ヲ戸籍吏ニ届出ツルコトヲ要シ此場合ニ於テ戸籍吏カ届出ヲ受理シタルトキハ指定又ハ其取消ハ被相續人ノ死亡ノ時ニ遡リテ其效力ヲ生シ(民法第九八一條)之ヲ要スルニ指定又ハ其取消ハ被相續人若クハ遺言執行者カ戸籍吏ニ之ヲ届出ツルニ非サレハ其效力ヲ生スルコトナシ  
指定カ當然效力ヲ失ヒ又ハ取消サルル前ニ被相續人ノ死亡又ハ隱居ニ因リテ家督相續カ開始シタルトキハ指定セラレタル者ハ家督ヲ相續シテ戸主ト爲ル

但指定セラレタル者カ被相續人ト其ニ被相續人隱居ノ届出ヲ爲シタル場合前  
(六)參照ヲ除外指定セラレタル者ハ相續ヲ拋棄スルコトヲ妨ケス

然レトモ被相續人ノ死亡又ハ隱居ニ因ラスシテ家督相續カ開始シタルトキ例  
ヘハ女戸主ノ入夫婚姻ニ因リテ家督相續カ開始シタルトキノ如シ尙ホ前第十  
三節參照ハ指定セラレタル者ハ戸主ト爲ルコトヲ得ス民法第九七九條末項)

(三) 指定及ヒ取消ノ手續 被相續人カ届出ニ依リテ家督相續人ヲ指定スル場  
合ニ在リテハ其届書ニ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス戸第一四〇條)

- 一 指定家督相續人タルヘキ者ノ氏名族稱出生ノ年月日職業及ヒ本籍地
- 二 法定ノ推定家督相續人ナキコト

(注意) 指定家督相續人カ他家ノ家族ナルトキハ其屬スル家ノ戸主ノ氏名及  
ヒ其戸主トノ續柄ヲモ記載スルヲ相當トス但此事ニ付キテハ戸籍法ニハ規  
定ナシ

被相續人カ遺言ニ依リテ家督相續人ヲ指定スル意思ヲ表示シタル場合ニ於テ  
遺言執行者カ指定ノ届出ヲ爲ストキハ其届書ニ前項ニ掲ケタル諸件及ヒ被

相續人ノ死亡ノ年月日ヲ記載シ且ツ之ニ其指定ニ關スル遺言ノ謄本ヲ添フル  
コトヲ要ス戸第一四一條)

被相續人カ届出ニ依リテ家督相續人指定ノ取消ヲ爲ス場合ニ在リテハ其届書  
ニ左ノ諸件ヲ記載スルコトヲ要ス(戸第一四二條)

- 一 指定家督相續人ノ氏名族稱出生ノ年月日職業及ヒ本籍地
- 二 指定ノ年月日

被相續人カ遺言ニ依リテ家督相續人指定ノ取消ヲ爲ス意思ヲ表示シタル場合ニ  
於テ遺言執行者カ指定取消ノ届出ヲ爲ストキハ其届書ニ前項ニ掲ケタル諸  
件及ヒ被相續人ノ死亡ノ年月日ヲ記載シ且ツ之ニ指定ノ取消ニ關スル遺言ノ  
謄本ヲ添フルコトヲ要ス(戸第一四四條)

前二項ノ場合ニ在リテハ家督相續人指定ノ取消ノ届出ヲ爲ス者ハ同時ニ前ニ  
爲シタル家督相續人指定ノ登記ノ取消ヲモ申請スルコトヲ要ス戸第一四三條、  
第一四四條)

(三) 指定カ效力ヲ失ヒタルトキ 家督相續人ノ指定ハ被相續人ニ法定ノ推定

家督相續人アルニ至リタルトキハ當然其効力ヲ失フ前(三)參照家督相續人ノ指定カ其効力ヲ失ヒタルトキハ指定ヲ爲シタル者ハ其實ヲ知リタル日ヨリ一箇月内ニ其効力ヲ失ヒタル事由ノ證明書ヲ提出シテ指定ノ登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス(戸第一四五條)

(注意)

(イ) 家督相續人ノ指定ハ其指定ノ取消ニ因リテモ亦効力ヲ失フ然レトモ此場合ニハ前(三)ニ説明シタル如ク戸籍法第一百四十三條、第一百四十四條ニ依リ指定ノ登記ノ取消ヲ申請スヘキカ故ニ同法第一百四十五條ニ依リテ指定ノ登記ノ取消ヲ申請スヘキ限ニ在ラス

(ロ) 指定カ効力ヲ失ヒタル事由ノ證明書トハ其事由カ發生シタルコトヲ認メシムルニ足ル公正又ハ私署ノ書面ヲ謂フ故ニ例ヘハ被相續人カ嫡出子ヲ生シ其者カ法定推定家督相續人ト爲リタル爲メ指定カ効力ヲ失ヒタルトキハ其出生ノ登記ノ謄本又ハ其者ノ戸籍ノ謄本ヲ提出スレハ足ル

(三) 被相續人カ無能力者ナルトキ 指定又ハ其取消ノ届出ハ既ニ効力ヲ生シタル事項ノ届出ニアラスシテ法律上ノ効力ヲ生セシムル爲メノ届出ナリ而シ

テ無能力者ハ法定代理人ノ同意ナクシテ指定又ハ其取消ヲ爲スコトヲ得ヘク法定代理人ハ無能力者ニ代リテ指定又ハ其取消ヲ爲ス權限ヲ有セザルカ故ニ被相續人カ無能力者ナルトキト雖自ラ届出ヲ爲スコトヲ要シ法定代理人ハ之ニ代リテ届出ヲ爲スヲ得ス

次ニ家督相續人指定ノ取消ノ届出ヲ爲ス場合ニ於テ爲スヘキ指定ノ登記ノ取消ノ申請及ヒ前(三)ニ説明シタル指定ノ登記ノ取消ノ申請ハ何レモ私法上ノ或効力ヲ發生セシムルコトヲ目的トスル申請ニアラスシテ戸籍法第一百四十三條以下三條ノ規定ニ依リ戸籍法上ノ義務トシテ爲スコトヲ要スル申請ナリ然レトモ家督相續人ノ指定又ハ其取消ハ未成年者若クハ禁治產者ト雖法定代理人ノ同意ヲ得スシテ爲スコトヲ得ヘキ行爲ナルカ故ニ此等ノ行爲ニ基因スル前示登記取消ノ申請モ亦戸籍法第六十七條、第四十七條ニ依リ無能力者自ラ之ヲ爲スコトヲ要スルモノトス隨テ同法第六十七條、第四十六條ニ依リ其法定代理人カ申請義務者ト爲ルヘキ限ニ在ラス

(三) 戸籍吏ノ管轄

別段ノ定メナキカ故ニ本節ノ届出ニ關スル戸籍吏ノ管轄ニ

付キテハ通則ノ規定ニ從フコトヲ要シ(四)参照又取消ノ申請ハ原登記ヲ爲シタル戸籍吏ニ爲スコトヲ要ス

## 第十六節

入籍、離籍、復籍拒絶、及ヒ離籍、復籍拒絶又ハ復籍スヘキ家ノ廢絶ニ因ル一家創立ノ届出

## (三)總論

本節ニ於テハ戸籍法第四章第十六節ノ規定ヲ説明スヘシ

戸籍法第四章第十六節ニハ入籍ノ届出、離籍ノ届出、離籍ニ因ル一家創立ノ届出、復籍拒絶ノ届出、復籍拒絶ニ因ル一家創立ノ届出、及ヒ復籍スヘキ家ノ廢絶ニ因ル一家創立ノ届出ヲ規定シタリ  
右ニ掲ケタル入籍以下六種ノ届出ハ何レモ家ノミニ關スル事項ニ付キテノ届出ナリ婚姻其他ノ届出ノ如ク家及ヒ親族關係ニ關スル事項ニ付キテノ届出ニアラス

(三)入籍ノ届出 乙家ニ在ル者ハ左ノ條件ヲ具備スルトキハ甲家ノ家族ト爲ルコトヲ得民法第七百三十七條ノ規定ニ依ル入籍ノ場合はナリ

第一 入籍セントスル者(乙家ヨリ甲家ニ入ラントスル者ハ甲家ノ戸主ノ親族ナルコトヲ要ス

第二 甲家ノ戸主ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第三 入籍セントスル者カ未成年者ナルトキハ親權ヲ行フ父若クハ母又ハ後見人ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第四 入籍セントスル者カ乙家ノ家族ナルトキハ乙家ノ戸主ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第五 入籍セントスル者カ乙家ノ戸主ナルトキハ隱居ヲ爲シ又ハ其家ヲ廢スルコトヲ要ス 乙家ノ戸主カ隱居ヲ爲ストキハ同時ニ乙家ノ家族ト爲ルカ故ニ其者ノ隱居ニ因リ新ニ乙家ノ戸主ト爲リタル者ノ同意ヲ得ルコトヲ要スルハ勿論ナリ

第六 入籍セントスル者カ乙家ノ戸主ノ法定ノ推定家督相續人ナルトキハ廢除セラルルニ非サレハ甲家ニ入ルヲ得ス民法第七四四條

第七 入籍セントスル者ハ乙家ニ在ル者ノ妻ニアラサルコトヲ要ス但其夫ト

其ニ入籍セントスルトキハ此限ニ在ラス 夫婦家ヲ異ニスルヲ得ザルカ故ナリ

第八 入籍セントスル者ヨリ後ニ掲クル届出ヲ爲スコトヲ要ス 民法第七百三十七條ニハ入籍ノ意思表示ニ付キテノ方式ヲ規定セス然レトモ戸籍法第四百十六條ニハ「民法第七百三十七條ノ規定ニ依リ他家ノ家族ト爲ラント欲スル者中略ハ左ノ諸件ヲ具シテ入籍ノ届出ヲ爲スコトヲ要スト規定シアリテ他家ノ家族ト爲リタル者ハ云云ト規定セサルカ故ニ入籍セント欲スル者ハ同條ノ規定ニ從ヒタル届出ニ依リテ其意思ヲ表示スルコトヲ要シ戸籍吏カ此届出ヲ受理スルトキハ入籍ノ效力ヲ生スト爲ナサルヘカラス  
婚姻又ハ養子縁組ニ因リテ甲家ニ入リタル者ハ左ノ條件ヲ具備スルトキハ其配偶者又ハ養親ノ親族ニ非ナル自己ノ親族ヲ乙家ヨリ引取リテ甲家即チ婚家又ハ養家ノ家族ト爲スコトヲ得民法第七百三十八條第一項ノ規定ニ依ル入籍ノ場合はナリ

第一 甲家ノ戸主ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第二 入籍セシメントスル者甲家ニ在ル者ヲ指スカ未成年者ナルトキハ親權ヲ行フ父若クハ母又ハ後見人ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第三 入籍スヘキ者乙家ニ在ル者ヲ指スカ乙家ノ家族ナルトキハ乙家ノ戸主ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第四 入籍スヘキ者カ乙家ノ戸主ナルトキハ前項ノ第五ニ同シ

第五 入籍スヘキ者カ乙家ノ戸主ノ法定ノ推定家督相続人ナルトキ又ハ乙家ニ在ル者ノ妻ナルトキハ前項ノ第六又ハ第七ニ同シ

第六 入籍セシメントスル者ハ其配偶者又ハ養親ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス  
第七 入籍セシメントスル者ヨリ後ニ掲クル届出ヲ爲スコトヲ要ス

此届出ヲ爲シ戸籍吏カ之ヲ受理スルニ非サレハ入籍ノ效力ヲ生セス戸第一四六條參照

次ニ婚家又ハ養家乙家ヲ去リタル者ハ右ト同一ノ條件ヲ具備スルトキハ其家ニ在ル自己ノ直系卑屬ヲ引取リテ自己ノ現ニ屬スル家甲家ノ家族ト爲スコトヲ得民法第七百三十八條第二項ノ規定ニ依ル入籍ノ場合はナリ



民法第七百三十七條ノ場合ハ入籍スヘキ者ノ意思ニ基クコトヲ要シ民法第七百三十八條ノ場合ハ入籍スヘキ者ノ意思ニ基カサルハ勿論其者ノ承諾ヲ得ルコトヲモ要セス

(注意) (イ) 民法第七百三十八條ニ付テハ解釋區區ナリ然レトモ詳細ハ民法ノ講義ニ譲リテ異說ヲ列舉セス

(ロ) 民法第七百三十八條ハ舊民法人事編第二百五十六條ヲ修正シタルモノナリ(民法修正案參考書第七百三十八條ノ説明参照)而シテ舊民法ニ在リテハ入籍スヘキ者ノ意思ニ基カサルコトハ疑ヲ容ルルノ餘地ナシ

(ハ) 民法第七百三十八條ヲ予ノ說ノ如ク解釋スルトキハ入籍スヘキ者ノ意思ニ反シテ入籍セシムルヲ得ルカ如キ種種ノ不都合ヲ生ス然レトモ規定ノ不備ナルヨリ生スル已ムヲ得サルノ缺點ナリ

民法第七百三十七條ノ規定ニ依リ他家ノ家族ト爲ラント欲スル者又ハ民法第七百三十八條ノ規定ニ依リ自己ノ親族ヲ婚家養家又ハ自家ノ家族ト爲サント欲スル者ハ左ノ諸件ヲ具シテ入籍ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス戸第一四六條

一 入籍スヘキ家ノ戸主ノ氏名出生ノ年月日職業及ヒ本籍地

二 入籍スヘキ家ノ戸主又ハ家族ト入籍スヘキ者トノ親族關係 民法第七百三十七條ニ依ル場合ニ在リテハ入籍スヘキ家ノ戸主ト入籍スヘキ者トノ親族關係ヲ記載スルコトヲ要ス同條ニ依ル場合ニ在リテハ入籍スヘキ家ノ家族ト入籍スヘキ者トノ親族關係ヲ記載スルヲ要スルコトナシ

民法第七百三十八條ニ依ル場合ニ在リテハ入籍セシメントスル者カ戸主ナルトキハ其者戸主ト入籍スヘキ者トノ親族關係ヲ記載スルヲ要ス之ニ反シテ入籍セシメントスル者カ家族ナルトキハ其者家族トノ親族關係ヲ記載スルヲ要シ入籍スヘキ家ノ戸主トノ親族關係ヲ記載スルヲ要セス

之ヲ要スルニ民法第七百三十七條ノ場合ニ在リテハ入籍スヘキ家ノ戸主ト入籍スヘキ者トノ親族ナルコトヲ要シ第七百三十八條ノ場合ニ在リテハ入籍セシメントスル者ト入籍スヘキ者トノ親族ナルコトヲ要スルカ故ニ其親族關係ヲ記載セシムルナリ

三 入籍スヘキ者カ廢家シテ他家ニ入ルトキハ其旨

四 入籍スヘキ者カ其去ルヘキ家ノ家族ナルトキハ其家ノ戸主ノ氏名出生ノ年月日職業本籍地及ヒ其戸主ト入籍スヘキ者トノ續柄入籍ニ付キ戸主配偶者養親親權ヲ行フ者又ハ後見人ノ同意ヲ要スル場合ニ於テハ届出人ハ届書ニ同意ノ證書ヲ添ヘ又ハ同意ヲ爲シタル者ヲシテ届書ニ同意ノ旨ヲ附記シ之ニ署名捺印セシムルコトヲ要ス(戸第一四七條)

既ニ逃ヘタル如ク入籍ハ届出ニ依リテ其效力ヲ生スルカ故ニ入籍ノ届出ハ既ニ生シタル事項ニ付キ戸籍法上ノ義務トシテ爲ス届出ニアラス隨テ此届出ニ付テハ戸籍法第四十六條ヲ適用スヘキ限ニ在ラス

戸籍法第四百十六條及ヒ第四百十七條ニハ民法第七百三十五條第一項ノ規定ニ依リ入籍スル場合アルカ如ク規定シアリ然レトモ民法第七百三十五條ハ出生シタル子ノ入ルヘキ家ニ關スル規定ニシテ一ノ家ヲ去リテ他ノ家ニ入ル場合ニ關スル規定ニアラス隨テ同條第一項ニ依リテハ入籍ヲ爲スヲ得ルコトナシ

(一七) 離籍ノ届出及ヒ離籍ニ因ル一家創立ノ届出 左ノ場合ニ於テハ戸主ハ

其家族ヲ離籍スルコトヲ得離籍トハ戸主權ヲ行使シテ戸主家族ノ關係ヲ絶ツヲ謂フ

第一 家族カ戸主ノ意ニ反シテ其居所ヲ定メタル場合ニ於テ戸主カ相當ノ期間ヲ定メ其指定シタル場所ニ居所ヲ轉スヘキ旨ヲ催告シタルモ家族カ其催告ニ應セザルトキハ戸主ハ之ヲ離籍スルコトヲ得但家族カ未成年者ナルトキ又ハ法定ノ推定家督相續人ナルトキハ此限ニ在ラス(民法第七四九條第七四四條第一項又家族カ妻ナルトキハ其夫ト共ニスルニアラサレハ之ヲ離籍スルコトヲ得ス)

(注意) 法定ノ推定家督相續人ト雖之ヲ離籍スルコトヲ得トノ說アリ司法省民刑局長ノ戸籍吏ニ對スル回答ハ此說ヲ採リ大審院ノ判決例ハ予ノ說ニ同シ

第二 家族カ戸主ノ同意ヲ得シテ婚姻ヲ爲シ又ハ養子縁組ヲ爲シタルトキハ戸主ハ其婚姻又ハ養子縁組ノ日ヨリ一年內ニ離籍ヲ爲スコトヲ得(民法第七五〇條)

戸主カ無能力者ナルトキハ自ラ戸主權ヲ行使スルコトヲ得サルカ故ニ自ラ家族ヲ離籍スルコトヲ得ス而シテ此場合ニ在リテハ戸主ニ對シテ親權ヲ行フ者又ハ後見人ハ戸主權ヲ行使シ戸主ニ代リテ離籍ヲ爲スコトヲ得ルモノトス但繼父母嫡母又ハ後見人カ戸主ニ代リテ離籍ヲ爲スニハ戸主ノ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス(民法第八九五條第八七八條第九三四條第一項)

戸主カ疾病其他ノ事由ニ因リ其權利ヲ行フコト能ハサルトキハ戸主ノ親族會ハ戸主權ヲ行使シ戸主ニ代リテ離籍ヲ爲スコトヲ得但戸主ニ對シテ親權ヲ行フ者又ハ後見人アルトキハ此限ニ在ラス(民法第七五一條)

民法ハ離籍ノ意思表示ニ付テノ方式ヲ規定セス然レトモ戸籍法第百四十八條ニハ「戸主カ其家族ヲ離籍セント欲スルトキハ左ノ諸件ヲ具シテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス」ト規定シアルカ故ニ離籍セントスル者ハ届出ニ依リテ其意思ヲ表示スルコトヲ要シ戸籍吏カ此届出ヲ受理シタルトキハ離籍ノ效力ヲ生スト爲ササルヘカラス

離籍ハ左ノ效力ヲ生ス

- 一 離籍セラレタル者ハ其家ノ家族タル身分ヲ失ヒ其家ヲ去ル
- 二 離籍セラレタル者ハ民法ノ規定ニ因リテ當然一家ヲ創立シ(民法第七四二條)其者ハ其創立シタル家ノ戸主ト爲ル
- 三 離籍セラレタル者ノ妻ハ之ニ隨ヒテ其創立シタル家ニ入ル(民法第七四五條)

四 家族カ養子ヲ爲シタル爲メ離籍セラレタルトキハ其養子ハ養親ニ隨ヒテ其創立シタル家ニ入ル(民法第七五〇條第三項)

戸主カ其家族ヲ離籍セント欲スルトキハ左ノ諸件ヲ具シテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス(戸第一四八條)

- 一 離籍セラルヘキ者ノ氏名出生ノ年月日及ヒ職業
  - 二 離籍ノ原因(前第一及ヒ第二參照)及ヒ其原因發生ノ年月日
  - 三 離籍セラルヘキ者ト共ニ家ヲ去ルヘキ者離籍ノ效力ノ三及ヒ四參照アルトキハ其名出生ノ年月日職業及ヒ其者ト離籍セラルヘキ者トノ續柄
- 親權ヲ行フ者又ハ後見人カ戸主ニ代リテ離籍ヲ爲サントスルトキハ其者ヨリ

離婚ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス而シテ親族會ノ同意ヲ得ルヲ要スル場合ニ在リ  
テハ届書ニ其同意ノ證書ヲ添フルヲ相當トス。又ハ其親族會ノ會員ノ全員ヨリ  
親族會カ戸主ニ代リテ離婚ヲ爲サントスルトキハ其親族會ノ會員ノ全員ヨリ  
又ハ會員ノ過半数ヲ以テ民法第九四七條定メタル者ヨリ離婚ノ届出ヲ爲スコ  
トヲ要ス。

前二項ノ場合ニ在リテハ戸主ノ氏名出生ノ年月日職業本籍地及ヒ戸主ニ代リ  
テ離婚ヲ爲ス旨ヲ記載スルヲ相當トス。

(注意) 戸籍法ニハ戸主ニ代リテ離婚ヲ爲ス場合ノ届出ニ關スル特別ノ規定  
ヲ缺クカ故ニ戸主ニ限リ離婚ノ届出人ト爲ルヲ得ト爲ス者アリ然レトモ同  
法第四百四十八條ハ戸主カ届出ヲ爲ス場合ニノミ關スル規定ニアラスシテ戸  
主又ハ之ニ代ル者カ戸主權ヲ行使シテ離婚ヲ爲ス總テノ場合ニ關スル届出  
ノ規定ナリト解スルヲ正シトス。

離婚ニ因リテ一家ヲ創立シタル者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ十日内ニ左ノ諸  
件ヲ具シテ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス(戸第一四九條)。

一 離婚ヲ爲シタル戸主ノ氏名出生ノ年月日職業及ヒ本籍地 戸主ノ親權者  
等カ代リテ離婚ヲ爲シタル場合ニ在リテハ戸主及ヒ戸主ニ代リテ離婚ヲ爲  
シタル者ノ氏名等ヲ記載スルコトヲ要ス。

二 離婚ヲ爲シタル戸主ト届出人トノ續柄

三 離婚ノ原因及ヒ年月日 離婚ノ原因ニ付テハ前第一及ヒ第二ヲ参照スヘ  
シ。離婚ノ年月日トハ戸籍吏カ離婚ノ届出ヲ受理シタル年月日ヲ指ス。

四 届出人ノ家ニ入ルヘキ者アルトキハ其名出生ノ年月日職業及ヒ其者ト届  
出人トノ續柄 離婚ノ效力ノ三及ヒ四ヲ参照スヘシ。

離婚ノ届出ハ離婚ノ效力ヲ生セシムル爲メニ爲ス届出ナルモ離婚ニ因ル一家  
創立ノ届出ヘ既ニ發生シタル事實ニ付キ戸籍法上ノ義務トシテ爲ス届出ナリ  
故ニ離婚ニ因ル一家創立ノ届出ニ關シテハ戸籍法第四十六條ノ適用アリ。

(三) 復籍拒絶ノ届出 左ノ場合ニ於テハ戸主ハ其家族タリシ者ノ復籍ヲ拒絶  
スルコトヲ得。

第一 家族カ戸主ノ同意ヲ得シテ婚姻又ハ養子縁組ヲ爲シ之ニ因リテ他家

ニ入リタルトキハ戸主ハ其婚姻又ハ養子縁組ノ日ヨリ一年内ニ復籍ヲ拒絕  
スルコトヲ得(民法第七五〇條第二項)

第二 婚姻又ハ養子縁組ニ因リテ他家ニ入リタル者カ實家ノ戸主ノ同意ヲ得  
スシテ更ニ婚姻又ハ養子縁組ヲ爲シ之ニ因リテ更ニ他ノ家ニ入リタルトキ  
ハ實家ノ戸主ハ其婚姻又ハ養子縁組ノ日ヨリ一年内ニ復籍ヲ拒絕スルコト  
ヲ得(民法第七四一條)

戸籍法第五十條ニハ「戸主カ其家族タリシ者ノ復籍ヲ拒マント欲スルトキハ  
(中略之ヲ届出ツルコトヲ要ス」ト規定シアルカ故ニ復籍拒絕ノ意思ハ届出ニ依  
リテ表示スルコトヲ要シ戸籍吏カ此届出ヲ受理シタルトキハ復籍拒絕ノ效力  
ヲ生スト爲ササルヘカラス

復籍ヲ拒絕セラレタル者ハ離婚又ハ養子縁組ノ場合ニ於テ拒絕者ノ家ニ復籍  
スルコトヲ得ス

戸主カ其家族タリシ者ノ復籍ヲ拒マント欲スルトキハ左ノ諸件ヲ具シテ之ヲ  
届出ツルコトヲ要ス(戸第一五〇條)

一 復籍ヲ拒マルヘキ者ノ氏名出生ノ年月日職業及ヒ本籍地

二 復籍ヲ拒マルヘキ者カ婚姻又ハ養子縁組ニ因リテ入リタル家ノ家族ナ  
ルトキハ其家ノ戸主ノ氏名出生ノ年月日職業及ヒ本籍地

三 復籍拒絕ノ原因前ノ第一又ハ第二及ヒ其原因發生ノ年月日  
戸主カ無能力者ナルトキ又ハ其權利ヲ行フコト能ハサルトキニ關シ前(七)ニ述  
ヘタル所ハ復籍拒絕及ヒ其届出ニ付キテモ亦同シ

(三)復籍拒絕又ハ復籍スヘキ家ノ廢絶ニ因ル一家創立ノ届出 婚姻又ハ養子

縁組ニ因リテ他家ニ入リタル者ハ離婚又ハ離縁ノ場合ニ於テ實家ニ復籍スル  
ヲ原則トス(民法第七三九條然レトモ實家ニ復籍スルコト能ハサルトキアリ左  
ノ如シ)

第一 實家カ廢絶シタルトキ 後ノ第十七節參照

第二 實家ノ戸主カ復籍ヲ拒絕シタルトキ 前(三)參照

右第一及ヒ第二ノ場合ニ於テハ其者ハ民法ノ規定ニ因リテ當然一家ヲ創立ス  
但第一ノ場合ニ在リテハ其者ハ廢絶シタル實家ヲ再興スルコトヲ妨ケス民法

第七四〇條 第七四二條

右ノ場合ニ於テ一家ヲ創立シタル者ニ妻アルトキハ其妻ハ之ニ隨ヒテ其創立シタル家ニ入ル(民法第七四五條)

復籍拒絶又ハ復籍スヘキ家ノ廢絶ニ因リテ復籍ヲ爲スコト能ハサル者カ一家ヲ創立シタルトキハ其事實ヲ知リタル日ヨリ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シテ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス(戸第一五一條)

一 復籍ヲ拒ミタル戸主又ハ廢絶シタル家ノ最終ノ戸主ノ氏名出生ノ年月日、職業及ヒ本籍地

二 復籍拒絶又ハ復籍スヘキ家ノ廢絶ノ原因及ヒ年月日

三 届出人ノ家ニ入ルヘキ者アルトキハ其名、出生ノ年月日、職業及ヒ其者ト届出人トノ續柄

戸籍法ニハ一家創立ノ年月日ヲモ記載スルコトヲ要ストノ明文ナシ然レトモ復籍拒絶又ハ復籍スヘキ家ノ廢絶ノ年月日ハ一家創立ノ年月日ト異ナルカ故ニ届書ニ一家創立ノ年月日ヲモ記載スルヲ相當トス

(注意) 一家創立ノ年月日ハ復籍ヲ拒絶セラレ又ハ實家カ廢絶シタル後離婚又ハ離縁アリタル年月日ナリ  
此届出ハ既ニ發生シタル事實ノ届出ナルカ故ニ戸籍法第四十六條ノ適用ヲ受ク

(注意) 本節ニ掲ケタル各種ノ事由ニ因ル一家創立、絶家ニ因ル一家創立後ノ第十七節參照及ヒ出生ノ際父又ハ母ノ家ニ入ルコト能ハサルニ因ル一家創立、民法第七三三條第三項第七三五條第三項ハ本人ノ意思ニ基クニアラス此等ノ事由發生シタル場合ニ於テ法律ノ規定ニ依リ當然一家ヲ創立スルモノトス此點ニ於テ分家又ハ廢絶再興ト異ナル

(三) 戸籍吏ノ管轄 別段ノ定ナキカ故ニ本節ノ届出ニ關スル戸籍吏ノ管轄ニ付キテハ通則ノ規定ニ從フコトヲ要ス(四) 參照

第十七節 廢家、絶家及ヒ絶家ニ因ル一家創立ニ

關スル届出

## (三)總論 本節ニ於テハ戸籍法第四章第十七節ノ規定ヲ説明スヘシ

戸籍法第四章第十七節ニハ廢家ノ届出絶家及ヒ絶家ニ因ル一家創立ノ届出ヲ規定シアリ本節ニ掲タル届出ハ前節ニ掲ケタル届出ニ同シク家ニノミ關スル事項ニ付キテノ届出ナリ

(三)廢家ノ届出 新ニ家ヲ立テタル者即チ家督相續ニ因ラスシテ戸主ト爲リタル者ハ其家ヲ廢シテ他家ニ入ルコトヲ得(民法第七六二條第一項)

(注意) 前節及ヒ本節ニ掲タル事由ニ因リ一家ヲ創立シタル者出生ノ際父若クハ母ノ家ニ入ルコト能ハサリシ爲メ一家ヲ創立シタル者分家ヲ爲シタル者又ハ廢絶家ヲ再興シタル者ハ孰レモ民法第七百六十二條第一項ニ所謂新ニ家ヲ立テタル者ナリ

家督相續ニ因リテ戸主ト爲リタル者ハ本家ノ相續又ハ再興其他正當ノ事由ニ因リ裁判所ノ許可ヲ得タルトキニ限り其家ヲ廢シテ他家ニ入ルコトヲ得(民法第七六二條第二項非訟事件手續法第九一條)

廢家トハ戸主カ自己ノ意思ニ基キテ其家ヲ廢スルヲ謂フ廢家ハ戸主權ノ行使

ニアラス故ニ戸主ニ對シ親權ヲ行フ者後見人又ハ親族會カ戸主ニ代リテ戸主權ヲ行フ場合民法第八九五條第九三四條第一項第七五一條ト雖モ此等ノ戸主ニ代リテ其家ヲ廢スルコトヲ得ス

(注意) 戸主權トハ家族ニ對スル戸主ノ權利ナリ然ルニ親權ヲ行フ者後見人親族會ハ戸主ニ代リテ戸主權ヲ行フ權限ヲ有スルニ止マルカ故ニ此等ノ者ハ戸主ニ代リテ廢家ヲ爲スコトヲ得ザルナリ(此事ハ民法第九百三十四條第一項ノ趣旨ヨリ觀ルモ明カナリ)

司法省民刑局長ノ戸籍吏ニ對スル回答ハ反對說ヲ採ル

民法ニハ廢家ノ意思表示ニ關スル方式ヲ規定セザルモ戸籍法第五百十二條ニ(廢家ヲ爲サント欲スル者ハ(中略之ヲ届出ツルコトヲ要ス)ト規定シアルカ故ニ廢家ノ意思ハ届出ニ依リテ表示スルコトヲ要シ戸籍吏カ此届出ヲ受理スルトキハ廢家ノ效力ヲ生スト爲ササルヘカラス

(注意) 裁判所ノ許可ヲ得テ廢家ヲ爲ス場合ニ在リテハ許可ニ因リ廢家ノ效力ヲ生スルニアラス許可ヲ得テ爲シタル届出ヲ戸籍吏カ受理スルニ因リ其

效力ヲ生スルモノトス

戸主ハ前ニ述ヘタル要件ヲ具備スルトキハ其家ヲ廢シテ他家ニ入ルコトヲ得ルモ單ニ其家ヲ廢スルコトヲ得ス故ニ廢家ハ婚姻ノ入籍ノ本家相續其他ノ事由ニ因リ同時ニ他ノ家ニ入ルコトヲ得ル場合ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

戸主カ適法ニ廢家シテ他家ニ入ルトキハ其家族モ亦之ニ隨ヒテ當然其家ニ入ル(民法第七六三條)

廢家ヲ爲サント欲スル者ハ左ノ諸件ヲ具シ家督相續ニ因リテ戸主ト爲リタル者ニ非サルコトノ證明書又ハ廢家ノ許可ニ關スル裁判ノ謄本ヲ添ヘテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス(戸第一五二條)

一 廢家シタル者カ入ルヘキ家ノ戸主ノ氏名出生ノ年月日職業及ヒ本籍地

二 廢家シタル者ニ隨ヒテ他家ニ入ル者ノ名出生ノ年月日及ヒ職業

戸籍法ニハ明文ナキモ廢家シタル者ト之ニ隨ヒテ他家ニ入ル者トノ續柄ヲモ届書ニ記載スルヲ相當トス

廢家ノ届出ハ既ニ發生シタル事實ニ關シ戸籍法上ノ義務トシテ爲スヘキ届出ニアラサルカ故ニ戸籍法第四十六條ノ適用ヲ受クヘキ限ニ在ラス

前ニ述ヘタル如ク他家ニ入ルコトヲ得ルトキニ限リ廢家ヲ爲スコトヲ得ルモノナルカ故ニ婚姻養子縁組ノ入籍廢絶家再興ノ如キ届出ニ依リ效力ヲ生スル事由ニ因リ他家ニ入ルヘキ場合ニ在リテハ其届出ト廢家ノ届出トヲ同時ニ爲サナルヘカラス

然レトモ本家相續ノ如キ届出ニ依ラスシテ效力ヲ生スル事由ニ因リ他家ニ入ルヘキ場合ニ在リテハ其事由ニ關スル届出例ヘハ本家ノ家督相續ノ届出ト廢家ノ届出トヲ同時ニ爲スコトヲ要セス

(三)絶家及ヒ絶家ニ因ル一家創立ノ届出 戸主ヲ失ヒタル家ニ家督相續人ナ

キトキハ絶家シタルモノトシ其家族ハ各一家ヲ創立ス但子ハ父ニ隨ヒ又父カ知レサルトキ他家ニ在ルトキ若クハ死亡シタルトキハ母ニ隨ヒテ其創立シタル家ニ入リ妻ハ夫ニ隨ヒテ其創立シタル家ニ入ル(民法第七六四條)

(注意) (イ) 家督相續開始ノ當時家督相續人ナキト雖モ之ヲ以テ直チニ



絶家シタルモノト爲スコトヲ得ヌ何トナレハ家督相續開始シタル後、前戸主ノ親族會カ家督相續人ヲ選定スルカ如キコトアレハナリ

(ロ) 法定指定又ハ選定ノ家督相續人アルコト分明ナラサル爲メ裁判所カ民法第一千五百八條非訟事件手續法第六十五條第七十條第七十一條ノ規定ニ依リ相當ノ期間ヲ定メ家督相續人アルトキハ此期間内ニ相續財産ニ付キ其權利ヲ主張スヘキ旨ヲ公告シ期間満了シタルモ家督相續人顯ハレサルトキハ家ニ付キタモ亦家督相續人ナキコト確定シ其時ニ於テ絶家シタルモノト爲ル(隨テ此期間満了後ハ家督相續人ヲ選定スルコトヲ得ス)

絶家ノ家族ニシテ一家ヲ創立シタル者ハ其實質ヲ知リタル日ヨリ十日内ニ左ノ諸件ヲ具シテ絶家及ヒ一家創立ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス戸第一五三條

一 絶家ノ最終ノ戸主ノ氏名出生ノ年月日職業及ヒ本籍地

二 絶家ノ原因及ヒ年月日 絶家ノ原因トハ家督相續開始ノ事由例ヘハ前戸主ノ死亡ノ如シ及ヒ家督相續人ナキニ至リタル事由ヲ謂フ

三 一家ヲ創立シタル者ニ隨ヒテ其家ニ入ル者ノ名出生ノ年月日及ヒ職業

戸籍法ニハ明文ナキモ一家ヲ創立シタル者ト之ニ隨ヒテ其家ニ入ル者トノ續柄ヲモ届書ニ記載スルヲ相當トス

右ノ届出ハ既ニ發生シタル事實ニ關シ戸籍法上ノ義務トシテ爲スヘキ届出ナルカ故ニ戸籍法第六十四條ノ適用ヲ受ケ

(二) 戸籍吏ノ管轄 別段ノ定ナキカ故ニ本節ノ届出ニ關スル戸籍吏ノ管轄ニ付キタハ通則ノ規定ニ從フコトヲ要ス(四) 参照

## 第十八節 分家及ヒ廢絶家再興ニ關スル届出

(三) 總論 本節ニ於テハ分家ニ關スル届出及ヒ廢家又ハ絶家ノ再興ニ關スル

届出即チ戸籍法第四章第十八節ノ規定ヲ説明スヘシ

本節ニ掲ケタル届出モ亦前二節ニ掲ケタル届出ニ同シタ家ノミニ關スル事項ニ付キタノ届出ナリ

(三) 分家ノ届出 家族ハ戸主ノ同意アルトキハ分家ヲ爲スコトヲ得但未成年者ハ親權ヲ行フ父若クハ母又ハ後見人ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス民法第七四三

條

戸籍法第五百十四條ニ分家ヲ爲サント欲スル者ハ(中略之ヲ届出ツルコトヲ要ス)規定シアルカ故ニ分家ノ意思ハ届出ニ依リテ之ヲ表示スルコトヲ要シ、戸籍吏カ此届出ヲ受理シタルトキハ分家ノ效力ヲ生スト爲ササルヘカラス、分家ヲ爲シタル者ハ其分家ノ戸主ト爲リ分家ヲ爲シタル者ニ妻アルトキハ其妻ハ之ニ隨ヒテ當然分家ニ入ル(民法第七四五條)

分家ヲ爲ス場合ニ於テハ戸主ノ同意ヲ得テ自己ノ直系卑屬ヲ分家ノ家族ト爲スコトヲ得但直系卑屬カ滿十五年以上ナルトキハ其者ノ同意ヲモ得ルコトヲ要ス(明治三十五年法律第三十七號)

分家ヲ爲サント欲スル者ハ左ノ諸件ヲ具シテ之ヲ届出ツルコトヲ要ス(戸第一五四條)

- 一 分家ノ戸主ト爲ルヘキ者ノ氏名出生ノ年月日職業及ヒ本籍地
- 二 本家ノ戸主ノ氏名職業本籍地及ヒ其戸主ト分家ノ戸主ト爲ルヘキ者トノ續柄

三 分家ノ家族ト爲ルヘキ者アルトキハ其名出生ノ年月日及ヒ職業

四 分家ノ戸主及ヒ家族ト爲ルヘキ者ノ父母ノ氏名職業及ヒ本籍地

戸籍法ニハ明文ナキモ分家ノ戸主ト爲ルヘキ者ト家族ト爲ルヘキ者トノ續柄ヲモ届書ニ記載スルヲ相當トス

直系卑屬ノ同意ヲ得テ其者ヲ分家ノ家族ト爲ス爲合ニ在リテハ届書ニ其者ノ同意ノ證書ヲ添ヘ又ハ其者ヲシテ届書ニ同意ノ旨ヲ附記シ之ニ署名捺印セシムルヲ相當トス

(二)廢絶家再興ノ届出 左ノ場合ニ限リ廢絶家又ハ絶家ヲ再興スルコトヲ得

第一 家族ハ戸主ノ同意アルトキハ廢絶シタル本家分家同家其他親族ノ家ヲ再興スルコトヲ得但未成年者ハ親權ヲ行フ者若クハ母又ハ後見人ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス(民法第七四三條)

(注意) 同家トハ本家ヲ同シウスル他ノ分家ヲ謂フ

第二 婚姻又ハ養子縁組ニ因リテ他家ニ入リタル者カ離婚又ハ離縁ノ場合ニ於テ實家ノ廢絶ニ因リテ實家ニ復籍スルコト能ハサルトキハ其廢絶シタル

實家ヲ再興スルコトヲ得(民法第七四〇條但書)ニ依リテハ其届出ト同時ニ又裁判上ノ離婚若クハ離縁ノ場合ニ在リテハ判決ノ確定ト同時ニ廢絶家再興ノ届出ヲ爲スニアラサレハ民法第七百四十條ノ規定ニ依リ一家ヲ創立ス而シテ一家ヲ創立シタル後ハ其家ヲ廢スルニアラサレハ廢絶シタル實家ヲ再興スルニ由ナシ

戸籍法第五十五條ニハ「廢絶家ヲ再興セんと欲スル者ハ(中略)之ヲ届出ツルコトヲ要ス」ト規定シアルカ故ニ廢絶家再興ノ意思ハ届出ニ依リテ之ヲ表示スルコトヲ要シ戸籍吏カ此届出ヲ受理シタルトキハ再興ノ效力ヲ生スト爲ササルヘカラス

廢絶家ヲ再興シタル者ハ其再興シタル家ノ戸主ト爲ル再興ハ家督相續ニアラサルカ故ニ廢絶家ノ最終ノ戸主ノ權利義務ヲ承繼スルコトナシ

廢絶家ヲ再興シタル者ニ妻アルトキハ其妻ハ之ニ隨ヒテ再興シタル家ニ入ル(民法第七四五條)

如キ著作物ハ保護セラル規定アリ是レ全ク社會ニ利益ヲ與フル著作物ニ限リ保護ヲ與フルトノ主義ヨリ來レルモノナルヘシ然レトモ是レ著作權ノ保護ト著作物ノ取締トヲ混同セルモノニシテ理論上正當ニ非ス今出版ノ取締法ト著作權法トノ關係ヲ述ヘンニ著作權法ハ單ニ私權ヲ保護スル法律ニシテ出版ノ取締ニハ何等ノ關係ナキナリ風俗ヲ壞亂スル書籍又ハ治安ヲ妨害スル書籍ヲ取締ルハ出版法ノ關係所ニシテ斯ル書籍ハ出版法ニ依リテ發賣發布ヲ禁止セラルヘキモ著作權法ニ依リテハ著作權ノ目的物タルコトヲ失ハス我國ノ現行制度ニ於テハ全然此主義ヲ認ムルモ舊版權法ニ於テハ然ラザリシカ如シ同法ニ依レハ版權ノ保護ヲ受タルコトヲ得ル著作物ハ出版法ニ依リテ出版シ得ラルモノノミナリキ隨テ出版法ニ依リ發賣發布ヲ禁セラルモノハ版權ヲ得ラレザルモノト爲セリ是レ理論トシテ正當ニ非スト信ス英國ヲ除キ何國ノ制度ヲ觀ルモ斯ル主義ヲ取レル國ナシ出版ノ取締ト版權ノ保護トハ全ク別物ナルカ故ニ著作權法ニ於テハ如何ナル著作物ト雖モ著作者ノ權利ハ之ヲ保護スルナリ若シ其著書カ治安ヲ妨害スルカ若クハ風俗ヲ壞亂スルニ於テハ出版

警察法ニ依リテ取締ルヘキノミ是レ所有權ニ就テモ同一ニシテ法律ニ於テ禁制シタル物ニ非サル限ハ如何ナル物ト雖モ所有權ノ目的物ト爲リ得ルナリ例ヘハ極メテ不潔ナル物又ハ極メテ兇末ナル物ト雖モ之ヲ所有スレハ則チ法律ノ保護ヲ受ク随テ斯ル物ト雖モ他人若シ之ヲ竊取セハ其者ハ竊盜罪ニ問ハルルコトヲ免レサルヘク又損害賠償ノ義務ヲ負ハサルヘカラス此ノ如ク民法上所有權ノ目的ト爲ルハ物ノ性質ニ依リテ異ナルコトナシ唯其所有權ヲ行使スル上ニ於テ警察規則ニ依リテ制限セララルコトアルノミ故ニ所有權ノ目的物ト爲ルコトト所有權行使ノ取締ト云フコトトハ全ク異ナルモノナリ之ト同シク著作權ノ目的物ナリト云フコトト出版警察ノ取締ト云フコトトハ全ク別物ナリ故ニ著作權ノ基礎ハ著作者カ社會ニ利益ヲ與ヘタルカ爲メニ之ニ對シテ報酬ヲ與フルモノナリトノ說ハ今日ノ制度ニ於テハ正當ナル見解ニ非ス近世ノ著作權保護ノ法制ニ於テハ著作物ノ内容著作物ノ價值ニ因リテ權利ニ消長ヲ來スコトナシトノ主義ヲ採リ現ニ著作權保護ノ萬國會議ノ際ニ於テモ明カニ此事ヲ明言シ萬國著作權法模範法案ニ於テハ著作物ノ性質内容其目的ノ如

何ヲ問ハス著作權ヲ認メ之ヲ保護スル旨ノ一條ヲ加ヘ以テ著作物ノ内容ニ因リテ保護ヲ異ニスルコトナシトノ主義ヲ明カニセリ是ニ由リテ之ヲ觀ルモ報酬說ヲ以テハ著作權ノ基礎ヲ説明スルコト能ハサルコト殆ト疑ナキナリ第四ノ主義ハ「ベルンナリテアオリ」(Personalttheorie)即チ人格說ト稱スルモノニシテ著作權ノ基礎ハ人格ノ保護ニ在リト云フニ在リ此說ハ「アーレンス」ノ「テッセル」レヒト「自然法等」ニ見ユル所ナルカ「ベルトール」其他自然法派ノ學者ハ此說ヲ唱道スルカ如シ此說ニ從ヘハ著作者ノ思想カ外部ニ表ハレテ文字文章ト爲リ美術的彫刻物ト爲リ音樂ノ樂譜ト爲ルモノニシテ是レ即チ著作物ナリ故ニ著作物ハ著作者ノ思想ノ發現シタルモノニシテ面シテ思想ハ人格ノ一要素ナルカ故ニ人カ他人ノ著作物ヲ剽竊若クハ模擬スルハ是レ即チ著作者ノ人格ヲ侵害スルモノナリ例ヘハ美術家ノ書キタル畫ヲ他人カ模寫スルハ其美術家ノ人格ヲ侵害スルモノニシテ恰モ有形的ニ人ノ身體ヲ毆打スルト同シク無形的ニ人ノ人格ヲ損傷スルモノナリ故ニ著作權ノ基礎ハ人格ノ保護ニ在リト云フニ在リ此說モ亦決シテ誤謬ノ說ナリト謂フヘカラサルノミナラス一面ニ

於テハ寧ロ完全ナル說ナリト信スレトモ單純ニ人格ノ保護ト云フ説明ニテハ著作權ノ基礎ヲ完全ニ説明シ得タリト謂フコトヲ得ス予ハ後ニ述フルカ如ク著作權ハ所有權其他ノ權利ノ如ク單純ナル權利ニ非シテ「コムボジットライト」(混成權利)ナリト考テ有ス即チ一面ニ於テハ人ノ思想ヲ目的トスル所ノ權利ニシテ他ノ一面ニ於テハ普通ノ財產權ナリ故ニ權利ノ一面ハ此說ヲ以テ説明スルコトヲ得ヘキモ他ノ一面ハ之ヲ以テ説明スルコト能ハサルヘシ例ヘハ吾人ノ著書又ハ彫刻物等ヲ其儘「ルプロヂュース」シタル場合ノ如キハ吾人ノ思想ヲ其儘ニ移シタルモノナルカ故ニ人ノ思想ニ損害ヲ加フルコトナシ隨テ此場合ニハ唯財產權上ノ侵害ノミアリテ思想權上ノ侵害ナキカ故ニ人格ノ毀損ト謂フコトヲ得ス隨テ單ニ人格保護ノ理由ヲ以テシテハ未タ十分ニ著作權ノ基礎ヲ説明スルコトヲ得スト信ス

以上述ヘタル所ハ著作權ノ基礎ニ關スル學者ノ說ニシテ著作權ノ基礎ニ付テ論スル諸種ノ著書ヲ見ルニ右四說ノ外ニ出ラサルカ如シ然ラハ右四說中孰レヲ以テ正當トスヘキカト云フニ前ニ述ヘタル所ニ據リテ略ホ明カナル如ク予

ハ孰レモ不完全タルヲ免レスト信ス故ニ予ハ結局第二章ニ述ヘタル著作權ノ歴史ニ鑑ミテ判斷セサルヘカラサルモノト信ス即チ前ニモ述ヘタル如ク羅馬法ニ於テハ著作權ノ權利ハ認めサリシ所ニシテ此權利ハ全ク近世ノ法律現象ナリ蓋シ羅馬時代其他印刷術ノ發明前ニ於テ著作權ナルモノヲ認めサリシ所以ハ畢竟斯ル時代ニ於テハ著作權ヲ保護スル必要ナカリシニ由ルモノナリ蓋シ法律カ一ノ權利ヲ制定シテ之ヲ保護スルハ之ニ相當ナル必要ノ生シタルニ基クモノニシテ羅馬時代ニ於テ著作權ノ權利ヲ認めサリシハ固ヨリ當然ノ事タリ降テ第一期時代即チ特許主義ノ時代ニ於テ特種ノ著作物ニ限り一定ノ期間保護ヲ與フルニ至リタルハ前述シタル如クナルカ其理由トスル所ハ其著作物カ社會ニ利益ヲ與ヘタルト云フニ在リ即チ斯ル著作物ノ世ニ出テシコトヲ獎勵センカ爲メニ之ヲ保護シタルモノナリ若シ之ニ保護ヲ與ヘザランカ河人モ苦心シテ斯ル有益ナル書籍ヲ出版スル者ナキニ至ルヘキヲ以テ之ヲ保護スルノ必要ニ基ケルナリ隨テ此特許主義ノ時代ニ於テハ審查主義ヲ採リ著作物ノ内容ヲ審查シテ其著作物カ社會ニ利益ヲ與フルヤ否ヤヲ認定シ然ル後一定

ノ保護ヲ與ヘタルナリ故ニ保護ヲ與ヘタル著作物ノ種類モ國ニ依リテ異ナリ又保護ノ期間モ一定セナリシナリ例ヘハ佛國ニ於テ與ヘタル特許ト伊國ニ於テ與ヘタル特許トハ其内容ヲ異ニシ又其年限ヲ異ニセリ是レ他ナシ其著作ノ内容カ其國情ニ適應スルニ據リテ始メテ之ニ保護ヲ與フルモノナレハナリ此ノ如クナルヲ以テ或國ニ於テハ建築物ヲモノノ著作物トシテ之ヲ保護シ又或邦ノ如キハ之ニ反シテ其特許ヲ與フル範圍ヲ狹隘ニシ單ニ「バイブル」又「ハクタシタ」等ノ書類ノミニ保護ヲ與ヘタリ此ノ如ク第一期即チ特許主義ノ時代ニ於テハ其邦ニ利益ナリト認メタルモノノミニ對シテ保護ヲ與ヘタルモノナルカ故ニ斯ル時代ニ於ケル著作權ノ基礎ハ全ク報酬主義ニ出テタルモノト斷言スルコトヲ得ヘシ然ルニ第二期即チ所謂權利主義ノ時期ニ至リテハ報酬說ヲ以テハ説明スルコト能ハス即チ此時期ニ於テハ社會ニ利益ヲ與ヘタル著作者ノミヲ保護スルニ非スシテ總テ學者、美術家ノ製作物ニ對シ保護ヲ與ヘタルモノナリ是レ單ニ勞力ノミヲ基礎トスルニ非ス即チ翻譯若クハ翻案ナルモノハ特別ノ著作ト認メサル時代ナルカ故ニ勞力說ヲ以テ著作權ノ基礎ヲ説明スルコ

ト能ハス斯ル事情ニ據リテ之ヲ判定スレハ學者、美術家ノ權利ヲ保護スル基礎ハ全ク其時代ニ依リテ異ナルモノナルコトヲ知ルヲ得ヘシ故ニ前ニ述ヘタル各種ノ說ガ全然謬レリト云フニ非スト雖モ其各一說ノミヲ取リテハ到底著作權ノ基礎ヲ説明スルコト能ハサルナリ此ノ如ク其邦ノ事情ト時ノ趨勢ニ依リ保護ノ理由並ニ程度ヲ異ニスルモノナルカ故ニ此權利ノ基礎ハ社會ノ生存ヲ圖リ其邦ノ發達ヲ圖ルニ出テタルモノト謂ハサルヘカラスト信ス蓋シ此權利ヲ保護スルニ非サレハ其國ノ學問、美術ハ發達セス隨テ其國ノ進歩ハ得テ期スヘカラサレハナリ尤モ或時期ニ於テハ或一種ノ主義ヲ以テ説明スルヲ得タルモ今日ノ制度ニ於テハ如何ニシテモ一種ノ說ヲ以テハ説明スルコト能ハス固ヨリ其各種ノ說ハ著作權ヲ認ムル原因ノ一ト爲リシコト疑ナシト雖モ之ヲ以テ唯一ノ理由トスルコト能ハサルナリ之ヲ要スルニ著作權保護ノ基礎ハ其邦ノ生存發達ヲ圖ルノ必要ニ出テタルモノト謂フヘキナリ

#### 第四章 著作權ノ性質

著作權ノ性質モ亦時代ニ依リテ異ナルハ既ニ述ヘタル所ナリ即チ特許主義ノ時代ニ於ケル著作權ノ權利ト今日ノ著作權ノ權利トハ頗ル其性質ヲ異ニセリ故ニ今日ニ在リテハ各國ニ於テ認ムル所ノ著作權ノ現行法制ヲ基礎トシテ論スルノ外ナキカ故ニ以下述フル所ハ現今ノ立法ヲ基礎トシテ論スヘシ

著作權ノ基礎ニ關シテ種種ノ學說アル如ク著作權ノ性質ニ付テモ亦其說種種ニ歧ル先ツ第一說ハ所有權說ト名クルモノナリ此說ニ從ヘハ著作權ハ所有權ナリト爲スニ在リ是レ主トシテ佛國ノ學者ノ唱フル所ニシテ前ニ述ヘタル如ク佛國ニテハ著作權ヲ *Propriété littéraire et artistique* ト曰フ *Propriété* 即チ所有權ナル文字ヲ使用セリ而シテ其說ク所ヲ見ルニ之ヲ以テ一ノ所有權ト爲シ普通ノ有體物ニ於ケル所有權ト異ナルコトナク使用收益處分スル權利ナリト爲ス唯物ナル意義ヲ異ニスルノミ蓋シ物トハ必スシモ有體物ニ限ルヘキモノニ非スシテ所謂無形物即チ權利ノ如キモ此中ニ包含セシムルコトヲ得故ニ著作權ノ權利ハ一種ノ *Propriété* ナリト論スルナリ此說ハ佛國舊派ノ學者ノ唱道スル所ナリ例ヘハアルフォンヌ・カールノ如キハ著作權ハ所有權ナリト云ヘハ足レリ

之ニ復タ一語ノ附加スヘキナシ故ニ當然所有權ニ關スル普通法ヲ適用スヘキモノナリト曰ヘリ是レ單ニ學說ニ止マラス佛國ヲ始メ佛法系ノ國例ヘハ西班牙智利「ホン・デラス」サルザドル「ブラジル」ヴェネヅエラ等ノ法律ニ於テハ著作權ニ對シテ *Propriété* ナル文字ヲ使用セリ西班牙ノ民法ハ財産編中所有權ノ部ニ著作權ノ事ヲ規定シ又「ボアソナード」氏ノ起草ニ係ル我舊民法ニ於テモ物ヲ有體物、無體物ニ別チ無體物中ニ著作權技術者及ヒ發明者ノ權利ヲ掲ケタリ「舊民法財産編第六條第三項然ルニ新民法及ヒ獨逸民法ノ如ク所有權ナルモノハ有體物上ノ權利ナリトノ主義ヲ採ル以上ハ著作權ハ所有權ナリト謂フコト能ハサルコト明カナリ即チ或物カ或人ニ屬スル有様カ所有權ニシテ而モ其物カ有體物ニ限ルモノトセハ著作權ノ目的物ハ決シテ物ニ非サルヲ以テ著作權ヲ以テ所有權ナリト謂フコト能ハサルコト殆ト論ヲ俟タサルナリ唯茲ニ一言セサルヲ得サルハ物トハ何ソヤノ問題はナリ蓋シ物ナル語ハ場合ニ依リテハ廣キ意義ニ解スルコトヲ得サルニ非サルモ著作權ノ權利ノ如キハ到底物ナリト謂フコト能ハサルヘシト信ス假ニ權利ハ一ノ無體物ナリトノ主義ヲ採レハ若

作權モ亦所有權ナリト謂フコトヲ得ルヤモ知ルヘカラスト雖モ此ノ如クスレハ債權其他各種ノ權利ハ總テ所有權ナリトノ結論ヲ生シ甚タ穩當ヲ缺クヲ以テ著作權ニ Propriété ナル語ヲ用フルノ適當ニ非サルコトハ今日殆ト定説トスル所ナリ現ニ著作權ノ保護ニ關スル千八百八十五年ノ國際會議ニ於テ著作權ナル名稱ニ付キ大ニ議論アリテ佛國ノ委員其他佛國法系ノ國ノ委員等ハ仍ホ Propriété littéraire et artistique ナル名稱ヲ用フヘキコトヲ主張シタルモ獨逸ノ委員ハ熱心ニ之ニ反對シ著作權ハ決シテ *Peprité* ニ非ス此語ヲ用フルハ法理學上ノ原則ニ反ル旨ヲ主張シ終ニ此語ヲ用ヒサルコトモリ今日ニ於テハ著作權カ所有權ナリト云フ如キ説ヲ採ル者殆ト之ナシト雖モ從來佛國流ノ説明ニ於テハ皆著作權ヲ以テ所有權ノ一種ナリトセリ是レ其外形上互ニ相類似セルヲ以テナリ即チ所有權ニ對シテハ何人モ之ヲ侵害スヘカラサルト同シク著作權ニ對シテモ亦何人モ之ヲ侵害スルコト能ハサル義務ヲ有ス即チ其對世權タルハ同一ナリ又所有權カ吾人ノ資產ノ一部ヲ成スカ如ク著作權モ亦吾人ノ資產ノ一部ヲ成シ之カ買賣讓與等ヲ爲スコトヲ得又物ノ使用收益處分ヲ爲スコ

トヲ得ルト同シク著作權モ亦使用收益處分ヲ爲スコトヲ得ルナリ此ノ如ク外形上全ク所有權ト同一ナルカ故ニ之ヲ所有權ト同視スルニ至レルナリ然レトモ著作權ト所有權トハ其内容全ク異ナレリ所有權ハ物ノ使用收益處分ヲ爲スノ權ナルモ著作權ハ自己ノ著作物ヲ自己ノ意思ニ隨ヒテ複製スル權利ナリ故ニ外形ノミヲ視テ所有權ト同一視スルノ非ナルコトハ明カナリト信ス

第二説ハ著作權ハ債權ナリトノ説ナリ佛國ノ有名ナルルソーアル氏ハ此説ヲ採ル其説明スル所頗ル奇ナリ此説ハ前ニ説明シタル報酬説ノ思想即チ著作權ヲ保護スルハ著作家社會ニ利益ヲ與ヘタルカ爲メナリトノ説ヨリ來リタルモノナリ換言スレハ著作家自己ノ智能ノ働ニ因リテ世ヲ益スル著作物ヲ作リテ之ヲ社會ニ公ニシタルモノナルカ故ニ社會ハ之ニ對シテ報酬ヲ與フル義務アリ而シテ其報酬ハ即チ國家ノ與フル特許ナリ國家ノ與フル特許ハ取モ直サス著作家ニ一定ノ報酬ヲ與フルコトヲ約スルモノナリ故ニ著作家ハ社會ニ利益ヲ與フル對價トシテ社會ヨリ報酬ヲ受クルノ權利ヲ有スルモノニシテ其間ノ關係ハ債權ノ關係ナリトセルモノナリ



著作權ヲ債權ナリトスル者ハ又他ノ方面ヨリ之ヲ主張ス其說ニ據レハ著作  
ハ著作物ヲ世ニ發行スルニ因リテ自己ノ著作物ノ上ニ有スル權利ヲ世ニ發賣  
スルモノニシテ其代價トシテ社會カ一定ノ時期ノ間其著作物ヨリ生スル利益  
ヲ著作者ニ占有セシムルナリ即チ是レ賣買ノ代價ヲ代表スルモノナリ故ニ著  
作物ノ發行ハ賣買ニシテ著作者ノ權利ハ社會ニ對スル債權ナリト云フニ在リ  
此說ハ全ク一ノ譬喩ニ過キスシテ法律上ノ説明トシテハ何等ノ價值ナク固ヨ  
リ著作權ノ性質ヲ表明スルニ足ラサルナリ

第三說ハ特種所有權說ト稱スヘキモノニシテ其說ニ依レハ著作權ハ「アルフォ  
ンス・カール」ヲ唱フル如ク普通ノ所有權ニ非サルモ特別ノ性質ヲ有スル一種ノ  
所有權ナリト云フニ在リテ即チ *Proprietas sui generis* ナリトノ說ナリ普通ノ所有  
權ハ物ノ使用、收益、處分ヲ爲ス權利ナリ然ルニ著作權ハ物ノ使用、收益、處分ヲ爲  
スノ權利ニ非スシテ自己ノ製作シタル著作物ヲ他人ヲシテ模倣セシメサル權  
利ナリ然レトモ其權利ハ普通ノ所有權ト同シク吾人ノ資産ノ一部ヲ成シ世間  
一般ニ對抗シ得ルモノナリ故ニ或ハ普通ノ所有權ナリトハ謂フコト能ハサル

モ兎ニ角一種ノ所有權即チ特別ノ規定ヲ要スル一種ノ所有權ナリトスルモノ  
ナリ然レトモ是レ唯所有權ナリトノコトヲ變形シテ言ヘルニ過キスシテ若シ  
果シテ斯ル一種ノ所有權アリトセハ必スシモ所有權ト云ハスシテ一種特別ノ  
權利ナリト爲スヲ適當トス故ニ *Proprietas sui generis* ナリト云フカ如キハ窮シタ  
ル説明ニシテ適當ノ説明ト謂フコトヲ得サルナリ

第四說ハ著作權ハ「ベルンナリテ」ノ權利ナリトノ說ニシテ人格權說ト稱スヘ  
キカ是レ前ニ述ヘタル如ク著作權ノ基礎ハ人格ノ保護ニ在リトノ說ヨリ出テ  
タルモノニシテ「アーレンス」氏ノ如キハ此說ヲ採ル即チ著作物ハ學者、藝術家等  
ノ思想ノ發現シタルモノニ外ナラサルカ故ニ著作者ノ權利ハ人格權ニ外ナラ  
スト云フニ在リ人格權ノ範圍ハ學者ニ依リテ其說ヲ異ニスモ著作權ハ人  
格權ナリトノ說ハ前ニ述ヘタル如ク一種ノ説明トシテ看ルコトヲ得ヘシ然リ  
ト雖モ著作權ノ一方面ハ或ハ之ヲ以テ説明スルコトヲ得ヘシトスルモ完全ノ  
説明ト謂フコトヲ得ス前ニモ一言シタル如ク予ハ著作權ハ「コムボジット、ライ  
ト」ナリト信スル者ナリ而シテ「コムボジット、ライト」ノ一方面即チ思想上ノ權利ハ

此説ヲ以テ説明スルコトヲ得ヘシト雖モ他ノ一面タル普通ノ財産權ノ方面ニ付テハ人格權ノミニテハ足レリトセス故ニ此説ハ單ニ一部ヲ説明スルニ止マリ著作權全部ノ性質ヲ説明シタルモノト謂フコトヲ得ス

第五説ハ著作權ハ智能權(ego. Intellectual)ナリトノ説ナリ此説ニ據レハ元來羅馬法ニ於テハ私權ヲ別チテ物權債權人身權ノ三トセリ而シテ著作權ハ此三種中孰レニ屬スルカト云フニ其孰レニモ屬スルモノニ非ス即チ世間一般ノ人ニ對抗スヘキ權利ナルモ直接ニ物ノ上ニ行ハル權利ニ非サルヲ以テ物權ニ非ス又特定ノ人トノ間ニ行ハル權利ニ非サルカ故ニ債權ニモ非ス又人カ人トシテ有スル權利ニ非サルカ故ニ人身權ニモ非ス要スルニ羅馬法ニ於テ認メタル三種ノ權利中孰レニモ屬セサルモノナリ果シテ然ラハ此權利ハ一種特別ノ權利ト謂ハサルヲ得ス即チ債權ニモ非ス又所有權ニモ非ス又人身權ニモ非サル一種ノ權利ナリト謂ハサルヲ得ス此ノ如ク三種ノ私權中孰レニモ屬セストセハ此三種ノ私權ノ分類ノ外ニ更ニ特別ノ權利ヲ認メサルコトヲ得ス羅馬法ノ私權ノ分類ハ羅馬法時代ニ於テハ適當ノ分類ナリシモ今日ノ如ク新シキ

權利ノ認メラルル場合ニ於テハ一種特別ナル權利ノ分類ヲ制定セサルヲ得ス抑モ著作權ナルモノハ人ノ智能ノ働キヨリ發生スル所ノ權利ナルカ故ニ智能權トモ謂フヘキ一種ノ權利ナリ羅馬法ニ於テ從來認メタル三種ノ私權ノ分類以外ニ一種ノ「カテゴリー」ヲ作リテ之ニ智能權ナル名稱ヲ與フルノ必要アリト云フニ在リ此説ハ全ク一ノ「オリゲンナリター」ノ説ニシテ尙ニ巧妙ナル説ナリ從來著作權ヲ或ハ債權ナリト云ヒ或ハ所有權ナリト云ヘルハ強ヒテ羅馬法ニ於テ認メタル權利ノ分類中ニ入レントシタルモノナルヲ以テ牽強附會ノ説明ヲ爲シ所有權ニ非サルモノヲ所有權ナリト云ヒ債權ニ非サルモノヲ債權ナリト云フノ已ムヲ得サルニ至リシナリ然ルニ此ノ如ク物權債權人身權ノ三種ノ分類ニ制限セラレスシテ別ニ一種ノ權利ノ分類ヲ制定スヘキモノナリト説明スレハ其説明極メテ容易ニシテ特ニ符合シテ説明スルノ必要ナシ故ニ此説ハ一種ノ新説トシテ看ルコトヲ得ヘシ此説ヲ始メテ唱ヘタルハ佛國ノ「シルバンチエール」氏ニシテ後ニ之ヲ祖述シタルハ白耳義ノ法學者「エドモン・ピカール」氏ナリ「ピカール」氏ハ其著 *droit pur* ニ詳細ニ之ヲ説述セリ

此說ハ著作權ハ債權ニモ非ス物權ニモ非ス又人身權ニモ非スシテ一種ノ智能權ナル特別ノ權利ナリトスルノ說ナリ然ラハ智能權トハ如何ナルモノナルカト云フニ單ニ智能ノ產出物ノ上ニ有スル權利即チ著作權ハ著作權ナリ智能權ハ智能權ナリト云フニ過キスシテ問題ヲ以テ問題ヲ解釋シタルニ過キス之ヲ以テ智能權其モノヲ説明シ得タリト謂フコトヲ得ス唯羅馬法ノ權利ノ分類ニ限局セラレスシテ權利ノ一「カテゴリー」ヲ作りタル點ハ一種ノ新說トシテ探ルヘキモノナリ

此ノ如ク著作權ノ性質ニ付テハ學說區區ニ岐ルル所ナルカ何レノ說カ正當ナルカヲ論決スルハ頗ル困難ニシテ深ク研究スルヲ要ス今著作權ハ果シテ如何ナル性質ノ權利ナルカヲ斷定スルニ先チ先ク其論定ノ標準ヲ定メサルヘカラスル物ノ性質ヲ定ムルニハ其物ヲ區別スル標準ヲ明クニシ置クノ必要アリ是レ管ニ著作權ノ性質ヲ知ル上ニ於テ必要ナルノミナラス總テノ權利ノ性質ヲ定ムル上ニ於テ必要ナリトス此標準ニシテ明カナルニ非サレハ物ノ性質ヲ正確ニ決定スルコト能ハス是レ予ノ特ニ言フヲ埃タサル所ナルモ前述シタル

各種ノ說ハ或ハ此點ニ於テ正確ヲ得サルニ非ナルナキカラ疑ハサルヲ得ス例ヘハ著作權ハ如何ナル權利ナリヤト云フ問題ハ之ヲ二方面ヨリ觀察セサルヘカラス即チ著作權ハ物權ナリヤ債權ナリヤノ問題ト著作權ノ實質ノ内容ヨリ立論シ著作權ノ實質ハ如何ナル權利ナルカ如何ナル實質ヲ内容トセル所ノ權利ナルカト云フ二問題ニ分チテ論セサルヘカラス是レ恰モ鳥ハ鳥ナルカ獸ナルカノ問題ト鳥ハ如何ナル鳥ナルカト云フ問題ト同一ナリ例ヘハ所有權ハ物ヲ使用收益處分スル權利ナリト云フハ所有權ノ實質論ニシテ所有權ト地上權永小作權等ト區別シテ言フモノナリ世間一般ニ對抗スル權利ト云フ點ヨリ言ヘハ所有權ハ勿論地上權永小作權モ亦同一ノ分類中ニ在リテ總テ物權ト稱スルモノハ此中ニ入ルルコトヲ得債權ニ付テモ亦然ルモノニシテ債權ト云ヘハ契約ヨリ生スルモノアリ私犯ヨリ生スルモノアリ唯特定ノ人ニ對スル權利ナリト點ハ私犯ヨリ生スル債權ニ在リテモ契約ヨリ生スル債權ニ在リテモ同一ナリ此ノ如ク標準ヲ定メテ權利ノ性質ヲ判定スルニ非サレハ非常ナル混雜ヲ生スルモノナリ著作權ハ如何ナル權利ナリヤト云フ問題ニ答ヘテ著作權ハ著作

物ヲ複製スル權利ナリト云フハ所有權ハ物ヲ使用收益處分スル權利ナリ地上權ハ竹木又ハ工作物ヲ所有スル爲メ他人ノ土地ヲ使用スル權利ナリト云フト同シク權利ノ實質ヨリ斷定シタルモノナリ此點ヨリ言ヘハ著作權ハ所有權ニ非ス地上權ニ非ス債權ニモ非ス人身權ニモ非スト謂ハサルヘカラスルニ至リ前ニ述ヘタル所有權ト云ヒ債權ト云フカ如キハ其誤レルコト明カナリ彼ノ著作權ハ智能權ナリト云フ「ビカール」ノ説ノ如キハ全ク此方面ヨリ立論シタルモノナラント信ス然レトモ此點ヨリ言ヘハ唯リ著作權ノミ一種特別ノ權利ニ非スシテ總テノ權利皆一種特別ノ權利ナリト謂ハサルヘカラスルニ至ル之ニ反シテ著作權ハ如何ナル權利ナリヤト云フ問題ニ對シ或ハ著作權ハ物權ナリト曰ヒ或ハ債權ナリト曰フハ權利ノ内容ノ問題ニ非スシテ權利ノ分類ノ問題ナリ此ノ如ク權利ノ性質ヲ論定スルニハ二方面ヨリ之ヲ觀察セサルヘカラスルカ故ニ著作權ノ性質ヲ定ムルニ付テモ結局前ニ述ヘタル如ク二ノ標準ヲ區別シテ論セサルヘカラス然ラサレハ著作權ハ智能權ナリヤ所有權ナリヤ等ノ説ノ可否ヲ論定スルコト能ハスト信ス今此二標準ニ付キ説明センニ先ツ第一

著作權ハ如何ナル分類ニ屬スル權利ナリヤトノ點ヨリ述フレハ此問題ハ實ニ明白ニシテ予ハ著作權ハ對世權ナリト斷定スル者ナリ蓋シ羅馬法以來權利ノ分類ニ關シテハ其標準一ニ歸セス歐洲大陸ノ學者ハ權利ノ目的物ヨリ立論シテ直接ニ物ノ上ニ行ハル權利ハ物權ナリ直接ニ人ニ對シテ行ハル權利ハ債權ナリト云フ如キ説明ヲ爲ス此説明ニ依レハ著作權ハ物權ニモ非ス又債權ニモ非ス「ビカール」ノ言フカ如ク權利ノ孰レノ分類ニモ屬セサル一種ノ權利ナリト謂ハサルヘカラス即チ直接ニ物ノ上ニ行ハル權利ニ非ス又人ト人トノ間ニ行ハル權利ニモ非ス又人カ人トシテ有スル權利ニモ非ス即チ著作權ハ一種特別ノ權利ナリト論定セサルヘカラス隨テ所謂智能權トモ謂フヘキ權利ノ一ノカテゴリ「」作出セサルヘカラス何故ニ斯ル結果ト爲ルカト云フニ前述ノ分類ハ權利ノ目的物ヲ標準トシテ直接ニ物ノ上ニ行ハル權利ハ物權ニシタ人ト人トノ間ニ行ハル權利ハ債權ナリト云フ如ク分類スルモノナルカ故ニ茲ニ新シキ物ヲ目的物トスル權利ヲ生スレハ則チ新シキ權利ノ「カテゴリ」ヲ作ラサルヘカラスルニ至ル隨テ社會ノ進歩スルニ伴ヒテ電氣又ハ瓦斯ノ如キ

モノヲ目的トスル所ノ權利ヲ生スルニ至ルトキハ更ニ一種ノ權利ノ分類ヲ創  
定セサルヘカラサルニ至ラン今電氣ハ假ニ物物ナル語ノ意味ニモ依ルヘキモ  
ニ非ストスレハ電氣ノ上ニ有スル權利ハ物權ニ非ス隨テ物權債權以外ニ新シ  
キ權利ノ「カテゴリー」ヲ作ラサルヘカラス此ノ如ク漸次學問ノ進歩スルニ隨ヒ  
各種ノ新シキ權利ノ目的物ヲ生シ隨テ權利ノ新分類ヲ創設シ之ニ特別ノ名稱  
ヲ付セサルヘカラサルニ至ル故ニ若シ大陸流ノ如ク物權ハ物ノ上ニ行ハルル  
權利債權ハ人ト人トノ間ニ行ハルル權利ナリト説カハ著作權ハ智能權ト稱ス  
ル一種特別ノ權利ナリト云フカ如キ説明ヲ爲スノ已ムヲ得サルニ至ルヤ固ヨ  
リナリ然ルニ英國流ノ權利ノ分類ハ目的物ノ上ヨリ之ヲ定メスシテ權利ヲ對  
抗シ得ル範圍ニ其標準ヲ取レルモノニシテ總テノ人ニ對抗シ得ル權利ヲ「ジュ  
ス・イン・レム」(Jus in rem)ト曰ヒ特定ノ人ニ對抗シ得ル權利ヲ「ジュ  
ス・イン・ペルソナム」(Jus in personam)ト曰フ此分類ニ從ヘヤ如何ナル權利ト雖モ總テノ人ニ對  
抗シ得ル權利ナルニ於テハ「ジュス・イン・レム」ニシテ特定ノ人ニ對抗シ得ルモノ  
ハ「ジュス・イン・ペルソナム」ナリ此ノ如ク説明スレハ如何ナル權利ト雖モ此分類

雜 報

○本大學ノ沿革並ニ改正校則概要 明治三十六年八月二十八日文科大臣ノ  
認可ヲ得テ從前ノ和佛法律學校ヲ大學組織ト爲シ校名ヲ改メテ法政大學ト稱  
セリ是レ我法律學界ノ隆昌ヲ示スモノニシテ國家ノ爲メ諸君ト共ニ慶賀セサ  
ルコトヲ得サルナリ抑モ本大學ノ今日アルニ至レルハ其沿革頗ル古ク其創設  
ハ實ニ明治十二年ニ在リ即チ同年二月薩埯正邦橋本胖三郎大原鍊三郎堀田正  
忠金九鐵伊藤修ノ六氏一法律學校ヲ神田區駿河臺西紅梅町ニ設立シ名ケテ東  
京法學社ト稱セリ同十四年五月同區錦町ニ移轉シ東京法學校ト改稱シタリ後  
同區小川町ニ移轉シ二十二年五月東京佛學校ト合併シテ和佛法律學校ト稱シ  
同區柳原河岸ニ移轉シ二十三年七月現今ノ處ニ移轉シタリ東京佛學校ハ明治  
十九年四月辻新次山崎直胤長田銈太郎平山成信寺内正毅古市公威栗塚省吾七  
氏ノ設立ニ係リ佛蘭西語ヲ以テ普通學科ヲ教授スルヲ目的トセリ二校ノ合併  
成ルヤ邦語並ニ佛語ヲ以テ法律學及ヒ經濟學ヲ教授シ且佛語ヲ以テ普通學科

ヲモ教授シタリ中頃佛語科ヲ廢シ專ラ邦語ヲ以テ法律學並ニ經濟學ヲ教授シ來リタルカ三十三年十一月英佛獨三國語學科ヲ翌年九月更ニ漢文學ノ一科ヲ隨意科トシテ敎課目ニ加ヘタリ今ヤ校運益々隆盛ニ趨キ茲ニ大學ノ組織成ラ告タルニ至レリ左ニ改正校則ヲ摘録セシ

第一條 本大學ノ法律、政治及經濟ニ關スル學術ヲ教授シ且其蘊奧ヲ攷究セシムルヲ以テ目的トス

第二條 本大學ニ大學部、專門部、高等研究科及大學豫科ヲ置ク

第三條 大學部ニ於テハ法律、政治及經濟ニ關スル學術ヲ教授シ英吉利語、佛蘭西語又ハ獨逸語ニ依リ外國法ヲ講習セシム

專門部ニ於テハ專ラ邦語ヲ以テ法律、政治及經濟ニ關スル學術ヲ教授ス

高等研究科ニ於テハ法律、政治及經濟ニ關スル學術ノ蘊奧ヲ研究セシム

大學豫科ニ於テハ大學部ニ入ラシトスル者ノタメニ必要ナル豫備ノ學科ヲ教授ス

第五條 本大學ノ各部、科ヲ卒業シタル者ニハ其卒業證書ヲ授與ス

大學部ヲ卒業シタル者ハ法政大學學士ト稱スルコトヲ得

專門部ヲ卒業シタル者ハ法政大學得業士ト稱スルコトヲ得

第十二條 大學部修業年限ハ三商年トス

第十四條 年齡十八年以上ノ男子ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ限り大學部ニ入學スル

コトヲ得

一 大學豫科卒業生

二 高等學校大學豫科第一部第二級ヲ卒業シタル者

三 本大學ニ於テ大學豫科卒業生ト同學ノ學力ヲ有スル者ト認定シタル者ニシテ第二十

六條ノ資格ヲ有スル者

第二十三條 專門部ノ修業年限ハ三商年トス

第二十五條 專門部學生ヲ正科生及別科生ノ二種トス

第二十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ限り之ヲ專門部ノ第二學年以上ニ編入スルモノトス

一 本大學ト同等以上ト認メタル法律專門學校ノ同一學年ニ在ル者

二 前二條ノ入學資格ヲ有シ且前各學年ノ各學移ニ付キ編入試験ヲ受ケ之ニ合格シタル者

第三十一條 高等研究科ニ於テハ大學部學科目中ニ付キ各自志望ノ科目ヲ專攻セシム

第三十三條 大學部又ハ專門部ノ卒業生ハ高等研究科ニ入學スルコトヲ得

大學部卒業生又ハ專門部正科卒業生ニシテ高等研究科ニ入ル者ハ高等研究科正科生ト稱シ

專門部別科卒業生ニシテ高等研究科ニ入ル者ハ高等研究科別科生ト稱ス

第三十四條 本大學ト同等以上ト認メタル法律專門學校ノ卒業生ニシテ本大學ノ大學部卒業生又ハ專門部卒業生ニ該當スル者ト認ムル者ハ特ニ高等研究科ニ入學ヲ許スコトアルヘシ

前條第二項ノ規定ハ前項ニ依リ入學シタル者ニ之ヲ準用ス  
第三十七條 高等研究科ノ卒業試問ハ論文試問トス

卒業試問ニ關スル細則ハ別ニ之ヲ定ム

第三十八條 大學部卒業生ニ非サル者ニシテ高等研究科ヲ卒業シタル後別ニ定ムル規則ニ依  
リ試問ニ合格シタル者ハ法政大學學士ト稱スルコトヲ得

第三十九條 大學豫科ノ修業年限ハ一个年トシ毎年四月ニ始マリ翌年九月ニ終ル

第四十三條 大學豫科ノ入學期ハ毎年四月及九月トス但臨時補缺トシテ入學ヲ許スコトアル  
ヘシ

第四十五條 聽講生ハ本大學ノ各部、科ノ講義ヲ任意聽聞スル者トス

第四十六條 本大學ノ銓衡ヲ經タル者ハ各部、科ノ定員ヲ超ニサル範圍内ニ於テ聽講生トシ  
テ入學スルコトヲ得但必要ト認ムルトキハ試験ヲ行フコトアルヘシ

第六十六條 學術優等、品行方正ナル學生ヲ選ヒテ本大學ノ優待生ト爲ス

第六十七條 優待生ハ每學年末ニ於テ其試問又ハ試験ノ成績優等ナル者ニ就キ講師會ニ於テ  
之ヲ定ム

第六十八條 優待生ハ翌學年間授業料ヲ免除ス



明治三十六年九月三十日印刷  
明治三十六年十月一日發行  
（定價金貳拾錢）

編輯者 萩原敬之  
東京市牛込區牛込北町十番地

印刷者 小宮山信好  
東京市牛込區牛込矢張町三番地

印刷所 金子活版所  
東京市芝區西久保間舟町十一番地

發行所 司法省  
指定 法政大學  
東京市總町區富士見町六丁目十六番地  
（電話番町百七十四番）

（明治二十二年十二月九日內務省許可）  
（明治三十五年十一月四日第三種郵便物認可）  
（明治三十五年十一月廿一日至廿五日同）  
（明治三十五年十一月廿六日至三十日發行）